A.T.WORKS

サーバ管理ツール

AdminCloak

for Server Administration

操作マニュアル

AdminCloak操作マニュアル

本マニュアルで説明するソフトウェア（AdminCloak）はお客様とのソフトウェア使用許諾契約に基づき提供されます。本マニュアルで説明するソフトウェア（AdminCloak）は使用許諾契約条件に基づきご使用頂く必要があります。

■著作権情報

Copyright © 2006 A.T.WORKS, Inc. All rights reserved.
本マニュアルおよび本マニュアルで説明するソフトウェア（AdminCloak）に関連する印刷物の著作権および所有権は、株式会社エーティーワークスに帰属し、日本国著作権法およびその他の関連する法律によって保護されます。

株式会社エーティーワークスは本マニュアルの記述のいかなる誤りに対しても責任を負うものではありません。
また、株式会社エーティーワークスは本マニュアルの記述の使用によるいかなる結果に対しても責任を負うものではありません。本マニュアルはお客様の責任で使用してください。

本マニュアルの内容は情報提供のみを目的としており、予告なしに変更される場合があります。
事前に株式会社エーティーワークスによる許可がない限り、本マニュアルのいかなる部分も複製することはできません。
また、株式会社エーティーワークスによる許可がない限り、本マニュアルを配布することはできません。

目 次

P.3 第1章 はじめに

4 1．AdminCloakとは
5 2．動作環境
6 3．Liunxのインストール
7 4．RPMパッケージのインストール
9 5．AdminCloakのインストール
11 6．AdminCloakの初期設定
16 7．ライセンス登録と更新

P.17 第2章 簡単に設定してみよう！

18 1．バーチャルドメインを設定してみよう！
21 2．Webサーバを立ててみよう！
22 3．メールサーバを立ててみよう！
24 4．セキュリティを設定してみよう！
26 5．サーバの状態を確認しよう！

P.27 第3章 AdminCloakの更新・アンインストール

28 1．AdminCloakの更新
29 2．AdminCloakのアンインストール

P.31 第4章 機能説明

32 1．ユーザ管理
32 ユーザ一覧・削除
34 ユーザ追加
35 グループ一覧・削除
36 グループ追加
37 メール転送
39 2．Ｗｅｂサーバ
39 基本設定
42 3．メールサーバ
42 基本設定
44 4．ＤＮＳサーバ
44 レコード追加・削除
47 5．バーチャルドメイン
47 ドメイン管理
48 ドメイン一覧・削除
49 ドメイン追加
50 ドメイン情報
52 6．システム状態
52 グラフ表示
53 CPU・メモリ
54 ディスク容量
55 ディレクトリ容量
56 7．システム管理
56 システム設定
57 ネットワーク設定
58 日付・時刻
59 サービス起動・停止
60 システム再起動

61 8. システムログ
61 ログ表示
62 9. アクセス環境
62 アクセス環境
65 パケットフィルタ
67 管理ツール環境
69 10. プロセス管理
69 プロセス実行・終了
70 11. スケジューリング
70 cronジョブ表示・削除
71 cronジョブ追加
72 12. アクセス統計
72 アクセス統計

P.75 第5章 よくある質問と回答

76 1. よくある質問と回答

P.83 第6章 その他

84 1. telnetの有効化
85 2. vsftpdの有効化
87 3. vsftpdの無効化
88 4. gssftpの有効化
89 5. gssftpの無効化
89 6. パケットフィルタの無効化
90 7. AdminCloakのインストーラの機能説明
91 8. ファイル転送ソフト（FFFTP）の設定方法
93 9. SELinuxの無効化

第1章
はじめに

1．AdminCloakとは 4

2．動作環境 5

3．Linuxのインストール 6

4．RPMパッケージのインストール 7

5．AdminCloakのインストール 9

6．AdminCloakの初期設定 11

7．ライセンスの登録と更新 16

1. AdminCloakとは

この度は、AdminCloakをご利用いただき誠にありがとうございます。

株式会社エーティーワークスは、創業当時より、AT互換機にPC-UNIXをインストールしたサーバ機器の販売をおこなってきました。1996年には広告制作を手がける株式会社リンクと業務提携を結び、共同事業としてAT-LINK専用サーバ・サービス（at+link）をスタートしました。そのat+linkは、ユーザ指向のサービスと親切なサポートをコンセプトに2006年7月現在およそ7000台超の稼動実績をもち、専用サーバフィールドのコンセプトリーダー、プライスリーダーとしての地位を確立しています。

AdminCloakは、at+linkにおいて培ってきた管理・運用ノウハウと、お客様の要望に基づいて開発したサーバ管理者用のコントロールパネルです。従来のコマンドラインによる面倒なサーバ管理方法を見直し、Webベースのユーザインターフェイスと、最少限の情報入力による自動設定機能を提供しています。

＜AdminCloak利用時のメリット＞

(1) Webブラウザによるサーバの状況確認・設定変更が可能です。
(2) グラフィカルなユーザインターフェイス・管理メニューにより、必要な設定項目を素早く見つけることができます。
(3) 日本語による操作説明およびマニュアルが付属しています。
(4) 必要な項目を入力するだけでサーバの初期設定ができます。
(5) コマンドラインによる設定方法がわからない方でもサーバが構築可能です。
(6) 入力内容のチェックがおこなわれるため、単純な設定ミスを防ぐことができます。
(7) アクセス制限やパケットフィルタの設定が可能なため、より安全に運用できます。
(8) Webサーバ、メールサーバ、DNSサーバ、バーチャルドメインなどの複雑な設定も、設定ファイルが自動的に生成されるため、簡単に設定することができます。
(9) 従来のコマンドラインからのサーバ管理作業に比較し、短時間で設定可能なため、管理コストの低減を図ることができます。

2. 動作環境

■サーバ

CPU	Intel® Pentium®Ⅲ／Celeron®プロセッサ1GHz 以上を推奨 ※1
メモリ容量	512MB 以上を推奨
ハードディスク	空き容量30MB以上
必要ハードウェア	CD－ROMドライブ（CD－ROMからインストールをおこなう場合） ネットワークインターフェース
対応OS	Red Hat Enterprise Linux ES3（wsは非対応） Red Hat Enterprise Linux ES4（wsは非対応）※2 Red Hat Enterprise Linux 5 CentOS 3.6 以降 CentOS 4.6 以降 ※2 CentOS 5 以降

※1　Intel、インテル、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Pentium、Celeronはアメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
※2　SELinux機能を“無効”に設定していただく必要があります。
SELinux機能の無効化については、P93の「9.SELinuxの無効化」をご参照ください。

■管理コンソール

対応ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 6 以降 Mozilla Firefox 1.5以降

■メールサーバ(MTA)

AdminCloakでメール機能をお使いいただく場合、qmailのインストールが必要になります。
qmailのインストールは、AdminCloakインストール時に実行されます。
sendmail postfix等のメールサーバは、AdminCloakで設定することができません。ご注意ください。
※既にsendmailがインストールされている場合は、AdminCloakのインストール時にプロセスが停止します。

3. Linuxのインストール

AdminCloakをお使いいただく場合は、以下のパッケージが必要です。
OSのCD-ROMから必要なパッケージをインストールしてください。

推奨するインストールモード

■CentOS3.6 以降 / CentOS4.2 以降

インストール種類	カスタム
パッケージグループ選択 (詳細選択)	Webサーバ メールサーバ(sendmail.cf) DNSサーバ(caching-nameserver) FTPサーバ 開発ツール システムツール(mrtg)
その他	SELinuxの“無効”を選択する

■Red Hat Enterprise Linux ES3 / Red Hat Enterprise Linux ES4

インストール種類	インストールするソフトウェアをカスタマイズ
パッケージグループ選択 (詳細選択)	Webサーバ メールサーバ(sendmail.cf) DNSサーバ(caching-nameserver) FTPサーバ 開発ツール システムツール(mrtg)
その他	SELinuxの“無効”を選択する

4. RPMパッケージのインストール

「Linuxのインストール」において、カスタム以外のインストール種別を選択した場合、および、すでに使用しているサーバにAdminCloakをインストールする場合は、RPMパッケージのインストールが必要になります。ここではRPMパッケージの確認方法とインストール方法を説明します。

必要なRPMパッケージ（RPMパッケージ名）	php
	httpd
	bind
	caching-nameserver
	net-snmp
	net-snmp-libs
	mrtg
	gcc

1 RPMパッケージを確認します。

以下のコマンドを使用して、RPMパッケージの確認をおこないます。

```
# rpm -q php
# rpm -q httpd
# rpm -q bind
# rpm -q caching-nameserver
# rpm -q net-snmp
# rpm -q net-snmp-libs
# rpm -q mrtg
# rpm -q gcc
```

❶ 右の表示がある場合は、該当するRPMパッケージがインストールされています。

```
[root@localhost ]# rpm -q php
php-4.3.9-3.12 ❶
[root@localhost ]#
```

❷ 右の表示がある場合は、該当するRPMパッケージのインストールが必要となります。

```
[root@localhost root]# rpm -q gcc
パッケージ gcc はインストールされていません ❷
[root@localhost root]#
```

■RPMパッケージが全てインストールされていた場合
⇒P9の「5.AdminCloakのインストール」へ

■インストールされていないRPMパッケージがあり、ネットワークがつながっている場合
⇒P8の「2.RPMパッケージをインストールします」へ

■インストールされていないRPMパッケージがあり、ネットワークがつながっていない場合
⇒P8の「ネットワークにつながっていない場合のRPMインストール手順」へ

2 RPMパッケージをインストールします。

以下のコマンドを使用して、手順1で不足していたRPMパッケージをインストールします。

■ CentOS,RHEL5（Red Hat Enterprise Linux 5）の場合（RHEL5もyumコマンドとなります）※

```
# yum install php
# yum install httpd
# yum install bind
# yum install caching-nameserver
# yum install net-snmp
# yum install net-snmp-libs
# yum install mrtg
# yum install gcc
```

```
[root@localhost ~]# yum install gcc
Setting up Install Process
Setting up repositories
update                    100% |=========================
==|   951 B    00:00
base                      100% |=========================
==| 1.1 kB    00:00
addons                    100% |=========================
==|   951 B    00:00
extras                    100% |=========================
==| 1.1 kB    00:00
Reading repository metadata in from local files
primary.xml.gz            100% |=========================
==|   42 kB    00:00
update    :
```

■ Red Hat Enterprise Linux ES3/ES4 の場合※

```
# up2date install php
# up2date install httpd
# up2date install bind
# up2date install caching-nameserver
# up2date install net-snmp
# up2date install net-snmp-libs
# up2date install mrtg
# up2date install gcc
```

```
[root@localhost root]# up2date install gcc

Fetching Obsoletes list for channel: rhel-i386-es-3...

Fetching rpm headers...
########################################

Name                                    Version
Rel
-----------------------------------------------------------
---
gcc                                     3.2.3
54                  i386
```

※次のコマンドで、お使いいただいているOSが確認できます。

```
# cat /etc/redhat-release
```

3 再度、RPMパッケージを確認します。

次のコマンドを使用して、不足していたRPMパッケージを確認します。

```
# rpm -q【RPMパッケージ名】
```

```
[root@localhost root]# rpm -q gcc
gcc-3.2.3-54
```

■ネットワークにつながっていない場合のRPMインストール手順

❶ テキストモードでログインしている場合は、次のコマンドでグラフィックモードに切り換えます。

```
# startx
```

※サーバにX Window Systemがインストールされていることを前提としています。
X Window Systemがインストールされていない場合は、http://online.atworks.co.jp/をご覧ください。

❷ Red Hat Enterprise Linux、またはCentOSのCD-ROM Disk1を挿入します。
CD-ROMを挿入すると、自動的にパッケージ管理画面が表示されます。（パッケージ管理画面が表示されない場合は、【メインメニュー】⇒【システム設定】⇒【アプリケーションの追加と削除】を実行してください。）

❸ パッケージ管理画面が表示されます。P6の「3.Linuxのインストール」を参照しながら、必要なパッケージグループを選択し、追加インストールをおこないます。

5. AdminCloakのインストール

AdminCloakのインストール手順を説明します。

1 CD-ROMからファイルをコピーします。

※オンラインよりダウンロードされた場合は、ファイルを/usr/local/srcに配置してください。

❶CD-ROMをマウントします。

mount -t iso9660 -r /dev/cdrom /mnt

❷ファイルを確認します。

ls /mnt

❸2つのファイルをコピーします。

cp /mnt/adcl_install-【バージョン名】.tar.gz /usr/local/src

cp /mnt/adcl_packages-【バージョン名】.tar.gz /usr/local/src

❹ディレクトリに移動します。

cd /usr/local/src

```
[root@localhost /]# mount -t iso9660 -r /dev/cdrom /mnt
[root@localhost /]# ls /mnt
adcl_installer-1.5.1.1-16.tar.gz
adcl_packages-1.5.1.1-16.tar.gz
[root@localhost /]# cp /mnt/adcl_install-1.5.1.1-16.tar
.gz /usr/local/src/
[root@localhost /]# cp /mnt/adcl_packages-1.5.1.1-16.ta
r.gz /usr/local/src
[root@localhost /]# cd /usr/local/src/
[root@localhost src]#
```

2 ファイルを解凍します。

❶ファイルを解凍します。

tar xvfz adcl_installer-【バージョン名】.tar.gz

❷ディレクトリに移動します。

cd adcl_installer-【バージョン名】

```
[root@localhost src]# tar xvfz adcl_installer-1.5.1.1-12.tar.gz
adcl_installer-1.5.1.1-12/
adcl_installer-1.5.1.1-12/mailserver/
adcl_installer-1.5.1.1-12/mailserver/qmail-script
adcl_installer-1.5.1.1-12/mailserver/Makefile.orig
adcl_installer-1.5.1.1-12/mailserver/domainname
adcl_installer-1.5.1.1-12/mailserver/randpass.php
adcl_installer-1.5.1.1-12/mailserver/mailserver.sh
adcl_installer-1.5.1.1-12/LICENCE
adcl_installer-1.5.1.1-12/README
adcl_installer-1.5.1.1-12/rpms/
adcl_installer-1.5.1.1-12/rpms/adcl-1.5.1.1-12.i386.rpm
adcl_installer-1.5.1.1-12/rpms/adcl-1.5.1.1-12.i386.rpm.md5
adcl_installer-1.5.1.1-12/install.sh
[root@localhost src]# cd adcl_installer-1.5.1.1-12
[root@localhost adcl_installer-1.5.1.1-12]#
```

3 AdminCloakをインストールします。

❶次のコマンドを実行します。

./install.sh

❷右のように終了していることを確認します
（エラーで終わっていないことを確認してください）。

```
[root@localhost adcl_installer-1.5.1.1-12]# ./install.sh
-----------------------------------------------------
          Admin Cloak Installer
        (C) Copyright 2006 ATWORKS inc.
-----------------------------------------------------
```

```
--- Enable snmpd ---
snmpdは停止しています
snmpdは停止しています
snmpdを起動中:
  OK  ]
[root@localhost adcl_installer-1.5.1.1-12]#
```

4 メールサーバをインストールします。

❶ 以下のコマンドを実行します。
./install.sh mta

```
[root@localhost adcl_installer-1.5.1.1-12]# ./install.sh mta
-----------------------------------------------------------
          Admin Cloak Installer
             (C) Copyright 2006 ATWORKS inc.
-----------------------------------------------------------

Admin Cloak Version : adcl-1.5.1.1-12
```

❶

❷ “complete!” が表示されれば、インストール完了です。

```
ogger qmail & echo "qmail start"; ¥
fi
qmail start
-----------------------------
make_mail: complete!
-----------------------------
You have new mail in /var/spool/mail/root
[root@localhost adcl_installer-1.5.1.1-12]#
```

❷

5 ブラウザにて動作確認をおこないます。

ブラウザにて、以下のURLを入力します。

■ネットワークにつながっている場合
http://【該当サーバのIPアドレス】:8010/
■ネットワークにつながっていない場合
http://localhost:8010/

AdminCloakのログイン画面が表示されればインストール完了です。

6. AdminCloakの初期設定

AdminCloakをお使いいただくための初期設定の手順を説明します。

1 AdminCloakのログイン画面を表示します。

ブラウザにて以下のURLを入力します。

■ネットワークにつながっている場合
http://【該当サーバのIPアドレス】:8010/
■ネットワークにつながっていない場合
http://localhost:8010/

2 AdminCloakにログインします。

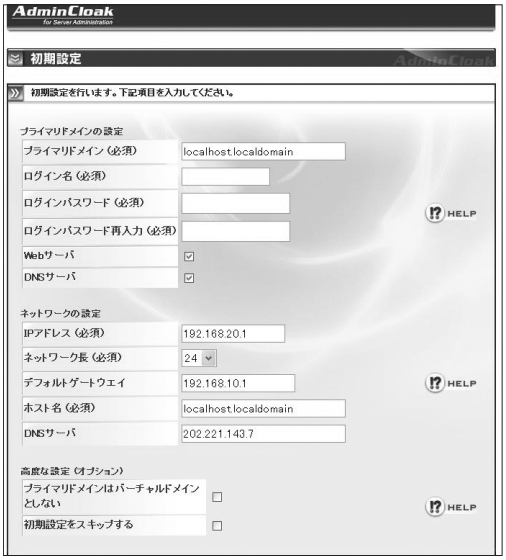
下記のログイン名・ログインパスワードでログインします。

LoginName	initialize※
Password	admincloak※

※今回の初期設定にのみ使用します。
初期設定完了後は使用できなくなりますのでご注意ください。

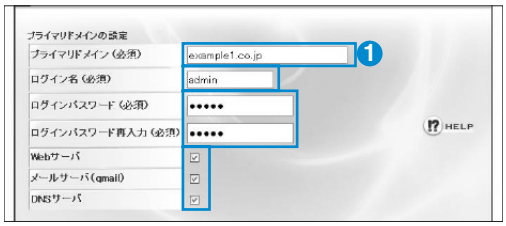
ログインに成功すると、初期設定画面が表示されます。

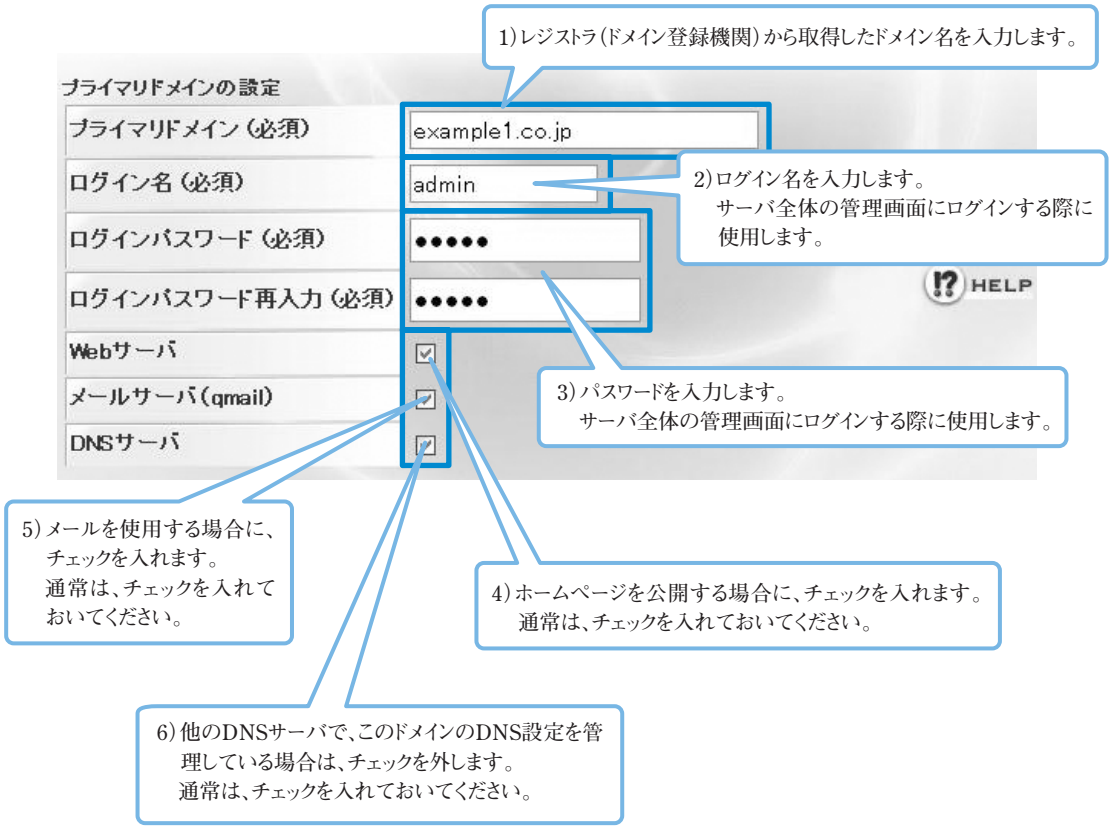
■ 初期設定をスキップする場合はP15へ



3 プライマリドメインの設定

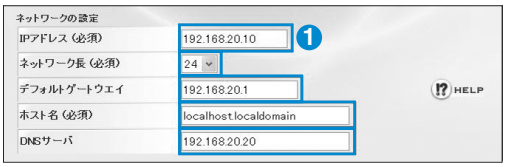
❶ サーバのドメイン設定をおこないます。

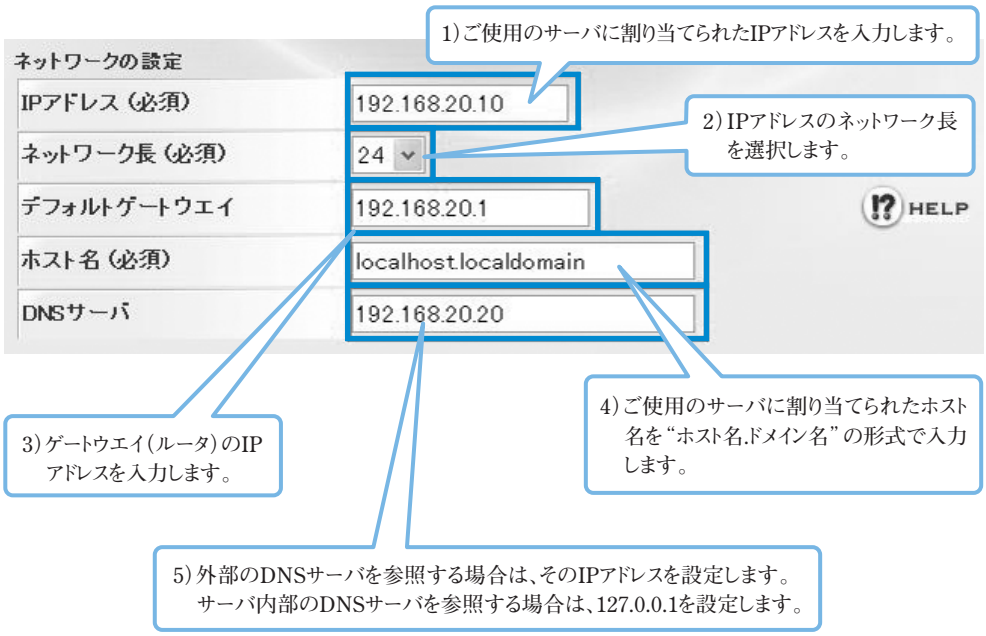




4 ネットワークの設定

❶ サーバのネットワーク設定をおこないます。





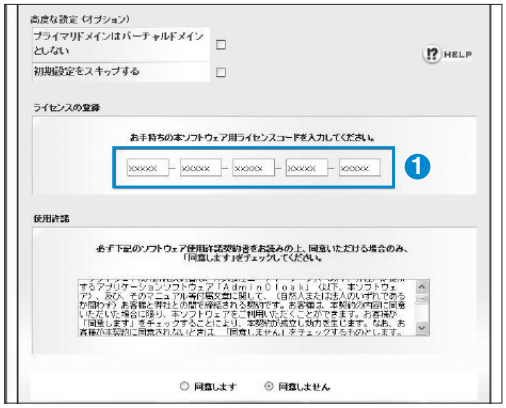
5 高度な設定

❶ プライマリドメインをバーチャルドメインとしない場合は、チェックを入れます。

! 通常はデフォルト（チェック無し）のままでご使用ください。

6 ライセンス登録

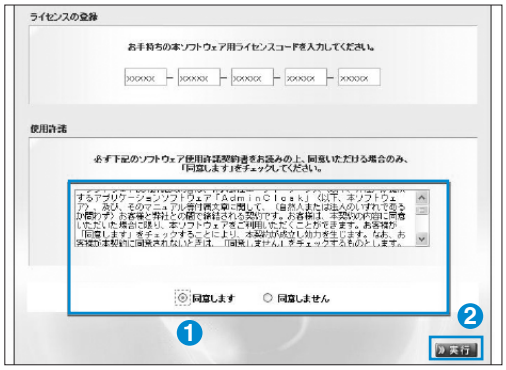
❶ お手持ちの「AdminCloakライセンス証明書」をご覧の上、ライセンスコードを入力します。



7 使用承諾

❶ 使用承諾契約書に同意していただける場合は、【同意します】にチェックを入れます。

❷ **「実行」**ボタンをクリックします。



8 確認

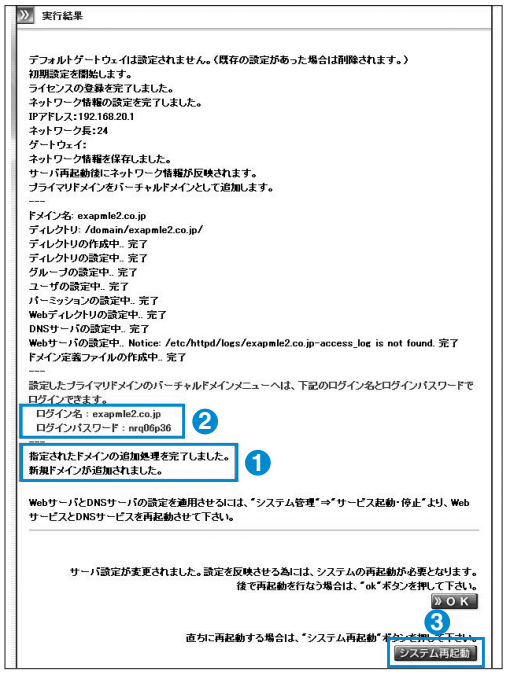
❶「指定されたドメインの追加処理を完了しました。新規ドメインが追加されました。」が表示されれば、初期設定は完了です。

❷ “ログイン名”と“ログインパスワード”のメモを取ります。

> ! バーチャルドメイン専用画面にログインする際に必要となります。

❸ **「システム再起動」**ボタンをクリックします。

> ! サーバが完全に立ち上がるまで、数分かかります。

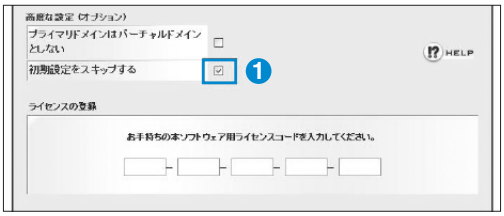


9 これで初期設定は完了です。

■初期設定をスキップする場合

1 高度な設定

❶【初期設定をスキップする】にチェックを入れます。

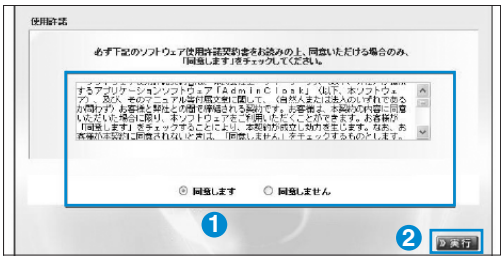


初期設定をスキップした場合、プライマリドメインを後から追加する必要があります。

2 使用承諾

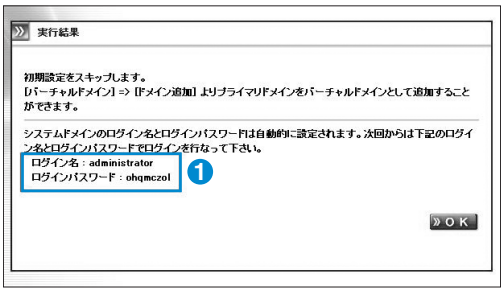
❶使用承諾契約書に同意していただける場合は、【同意します】にチェックを入れます。

❷「実行」ボタンをクリックします。



3 確認

❶“ログイン名”と“ログインパスワード”のメモを取ります。



AdminCloakの管理画面にログインする際に必要となります。

4 これで初期設定は完了です。

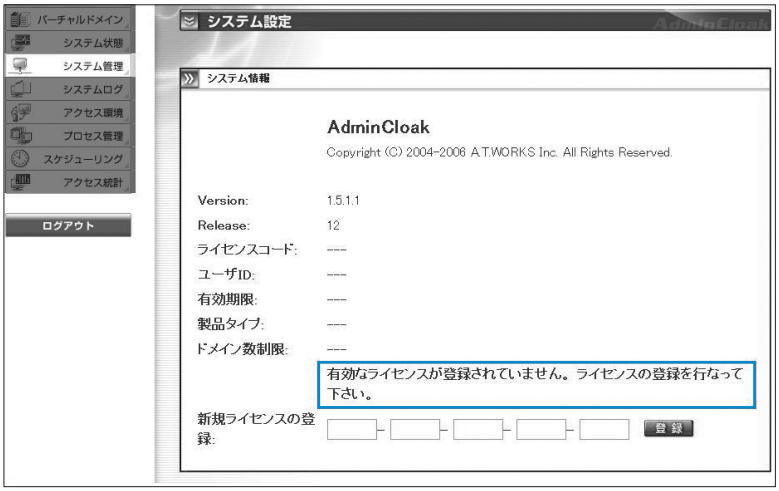
AdminCloakログイン後、ライセンスコードの入力が必要になります。
P16の「7.ライセンスの登録と更新」を参照し、お手持ちのライセンスコードを入力してください。

7. ライセンスの登録と更新

AdminCloakを使用するには、ライセンスの登録が必要です。
ライセンスの登録・更新は、AdminCloakで簡単におこなうことができます。

■ライセンスの登録

下の図のように、「有効なライセンスが登録されていません。ライセンスの登録を行なって下さい。」が表示されている場合は、新規ライセンスを登録する必要があります。
お手持ちの「AdminCloakライセンス証明書」をご覧の上、新規ライセンスを登録してください。



■ライセンスの更新

下の図のように、「有効期限が切れています。ライセンスの更新をして下さい。」が表示されている場合は、継続ライセンスを登録する必要があります。
継続ライセンスは、*http://online.atworks.co.jp/*から取得できます。

第2章

簡単に設定してみよう！

1．バーチャルドメインを設定してみよう！ 18

2．Webサーバを立ててみよう！ 21

3．メールサーバを立ててみよう！ 22

4．セキュリティを設定してみよう！ 24

5．サーバの状態を確認しよう！ 26

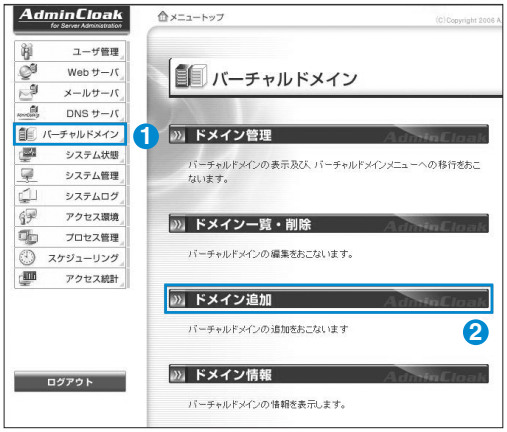
1．バーチャルドメインを設定してみよう！

AdminCloakを使用して、1台のサーバに複数のドメインを割り当てることができます。
ここでは、例としてexample2.co.jpのバーチャルドメインを設定する手順を説明します。

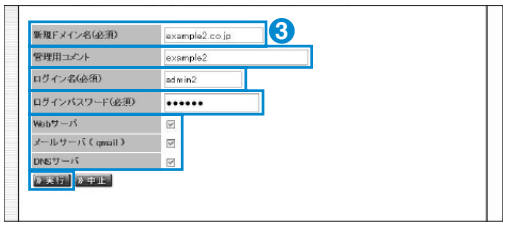
1 ドメインを追加します。

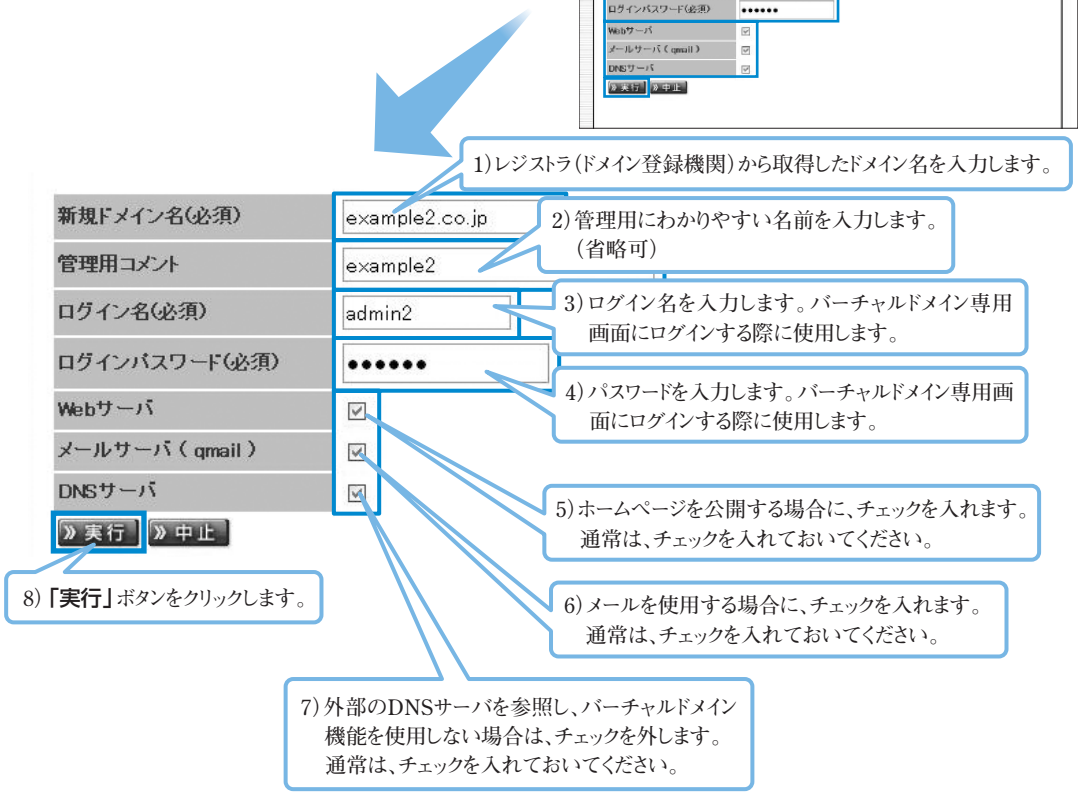
❶「**バーチャルドメイン**」ボタンをクリックします。

❷「**ドメイン追加**」ボタンをクリックし、設定画面を開きます。



❸ 各項目を入力します。



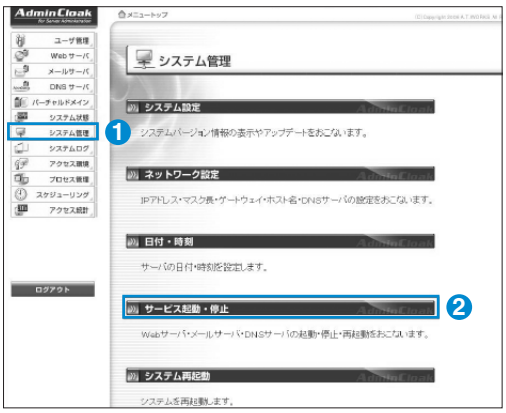


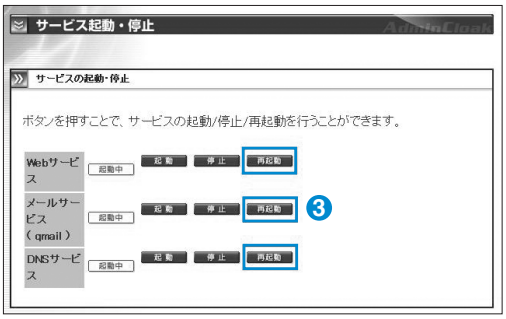
2 サービスを起動させます。

❶「**システム管理**」ボタンをクリックします。

❷「**サービス起動・停止**」ボタンをクリックします。

❸ *1* の❸ で、【Webサーバ】【メールサーバ】【DNSサーバ】にチェックを入れた場合、チェックを入れたサービスを再起動してください。停止している場合は、「**起動**」ボタンをクリックしてサービスを起動してください。

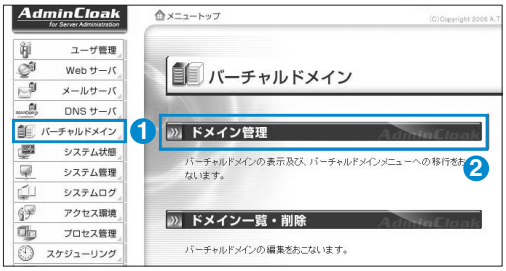




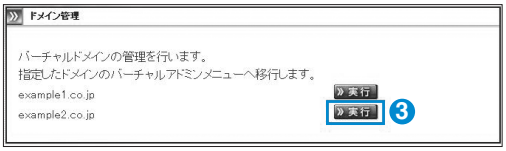
3【バーチャルドメイン】メニューを開き、各サービスの設定をおこないます。

❶「**バーチャルドメイン**」ボタンをクリックします。

❷「**ドメイン管理**」ボタンをクリックし、設定画面を開きます。



❸ 追加したドメインを選択して、「**実行**」ボタンをクリックします。



❹ 右の図のように、選択したドメインの専用画面に移行します。

■ホームページを公開する場合は、P21の「2.Webサーバを立ててみよう!」をご覧ください。

■メールの送受信をおこなう場合は、P22の「3.メールサーバを立ててみよう!」をご覧ください。

! サーバ全体の管理画面に戻る場合は、一度ログアウトした後、再度ログインしてください。

2. Webサーバを立ててみよう！

AdminCloakを使用すれば、簡単にホームページを公開することができます。
ここでは、例としてwww.example1.co.jpでホームページを公開する手順を説明します。

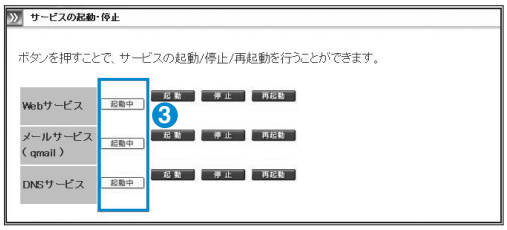
1 サービスを起動させます。

❶「**システム管理**」ボタンをクリックします。

❷「**サービス起動・停止**」ボタンをクリックします。

❸各サービスが起動していることを確認します。

! サービスが停止している場合は、「**起動**」ボタンをクリックし、サービスを起動してください。



2 ホームページのコンテンツをアップロードします。

❶FTPソフトを使用し、コンテンツをアップロードします。
FTPソフトは以下のように設定します。（詳細は、P91の「8.ファイル転送ソフト（FFFTP）の設定方法」をご覧ください。）

ホスト名（アドレス）	サーバのIPアドレスを入力します。
ユーザ名	admin@【ドメイン名】
パスワード	ドメイン追加時に決めたログインパスワードを入力します。

❷下記のディレクトリにindex.htmlなどのコンテンツを置きます。
/domain/【ドメイン名】/home/admin/public_html

3 ホームページを確認します。

ブラウザより次のURLにアクセスすると、アップロードしたコンテンツが表示されます。
http://【ドメイン名】/index.html

3. メールサーバを立ててみよう！

AdminCloakを使用すれば、メールを簡単に設定することができます。
ここでは、例としてyamada@example1.co.jpというメールアカウントの作成からメールの送受信までの手順を説明します。

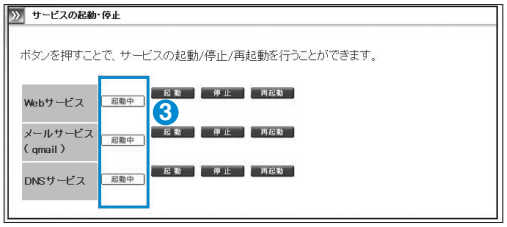
1 サーバを起動させます。

❶「**システム管理**」ボタンをクリックします。

❷「**サービス起動・停止**」ボタンをクリックします。

❸ 各サービスが起動していることを確認します。

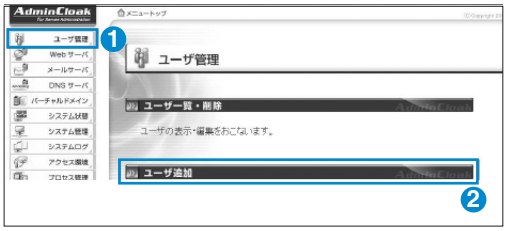
! サービスが停止している場合は、「**起動**」ボタンをクリックし、サービスを起動してください。



2 新しいメールアカウント（ユーザ）を追加します。

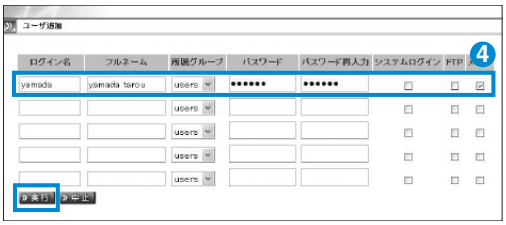
❶「**ユーザ管理**」ボタンをクリックします。

❷「**ユーザ追加**」ボタンをクリックし、設定画面を開きます。



❸ メールアカウント（ユーザ）を追加するドメインを選択して、「**実行**」ボタンをクリックします。

❹ユーザ情報を入力します。



1)ログイン名を入力します。メールを送受信する際に使用します。

2)フルネームを入力します。

3)所属させるグループを選択します。

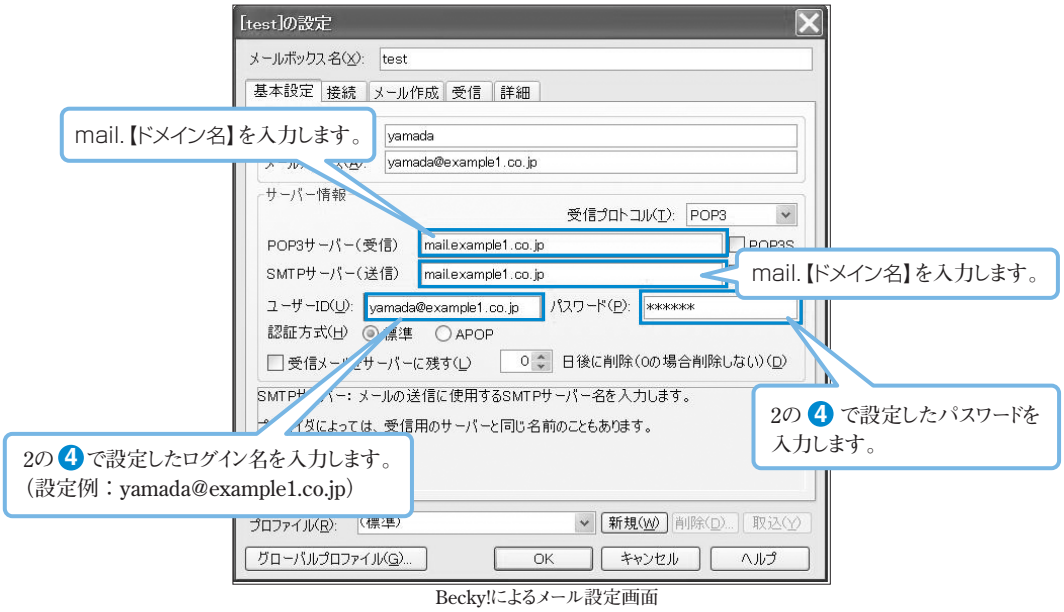
4)パスワードを決めます。メールを送受信する際に使用します。

5)【メール】に、チェックをいれます。

6)「実行」ボタンをクリックしますと、メールアカウント(ユーザ)が追加されます。

3 メールソフトの設定をおこないます。

メールソフトは、以下のように設定します。



Becky!によるメール設定画面

4 メールが送受信できることを確認します。

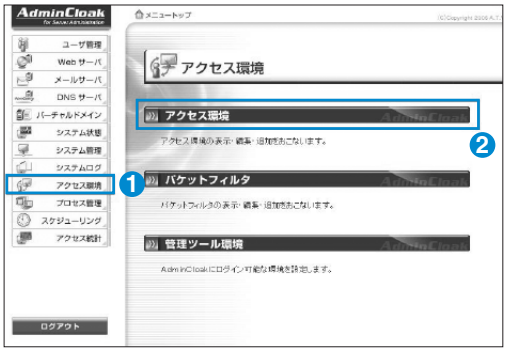
4. セキュリティを設定してみよう！

AdminCloakを使用して、外部の攻撃からサーバを守るためのセキュリティ設定が簡単にできます。ここでは、例として、ある環境（192.168.20.30）からのみSSH接続でアクセスできるようにするための設定手順を説明します。

1 サービスを起動します。

❶「**アクセス環境**」ボタンをクリックします。

❷「**アクセス環境**」ボタンをクリックし、設定画面を開きます。



2 アクセス環境の制限を開始します。

❶アクセス制限を開始するため、「**実行**」ボタンをクリックします。

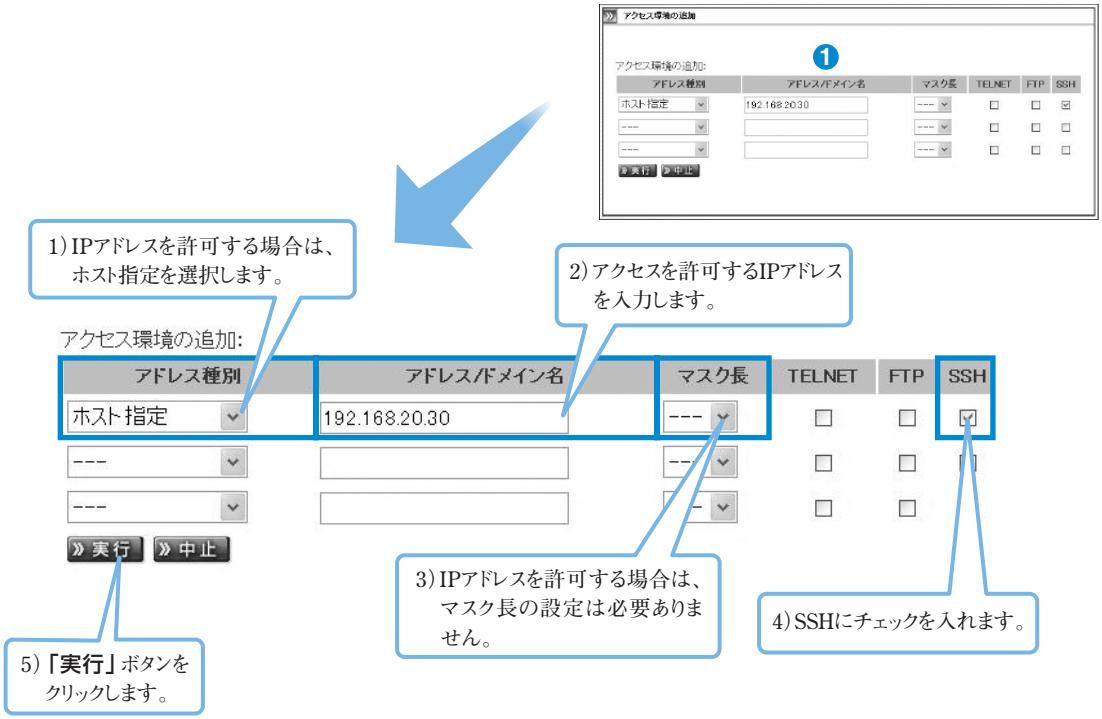
> **!** 一度、「**実行**」ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

❷【現在、アクセス環境は定義されていません。】が表示されている場合は、すべてのアクセスが不許可の状態になっています。アクセスを許可する環境（IPアドレス等）を設定する必要があります。

3 アクセスを許可するアドレスを追加します。

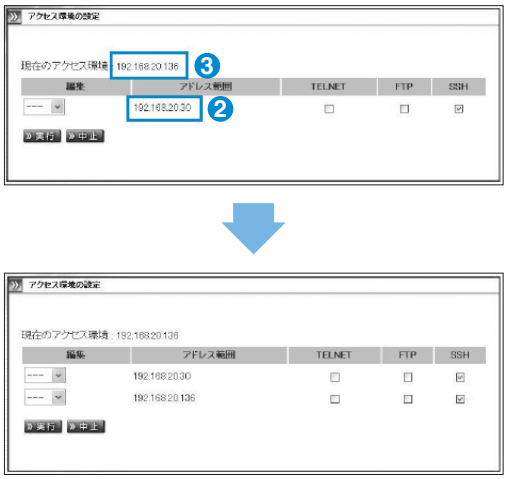
❶各項目を入力します。

■例：192.168.20.30（SSH接続）からのアクセスのみ許可する場合の設定例



❷【アクセス環境の設定】の【アドレス範囲】欄に、設定されたアドレスが追加されていることを確認します。

❸【現在のアクセス環境】に表示されているアドレスを❶のように追加します。これで、192.168.20.30からのSSH接続は許可されました。

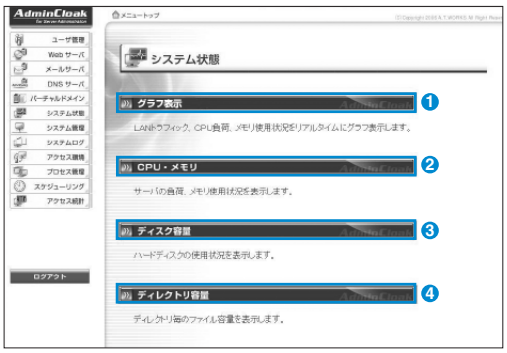


■ネットワークアドレス、ドメイン名でのアクセスも許可できます。P62「9.アクセス環境」をご覧ください。

5. サーバの状態を確認しよう！

AdminCloakを使用すれば、サーバの状態（グラフ表示、CPU、メモリ、ディスク容量、ディレクトリ容量）をグラフィカルに、わかりやすく確認することができます。

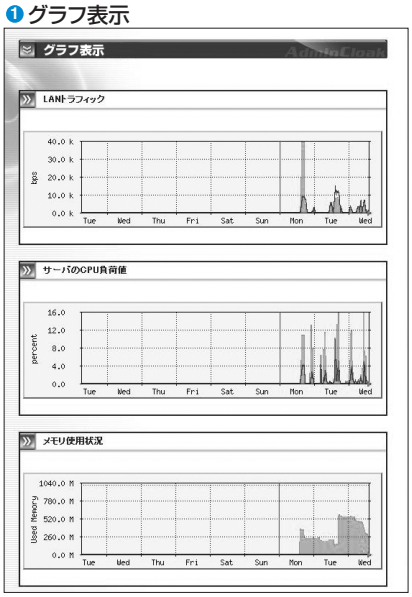
1 【システム状態】メニューを開きます。



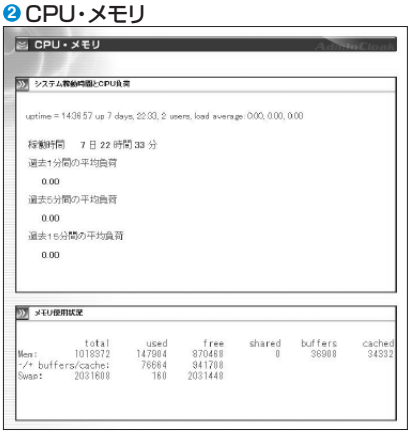
■ 以下のようにサーバの状態を確認することができます。

（詳細は、P52の「6.システム状態」をご覧ください）

❶ グラフ表示

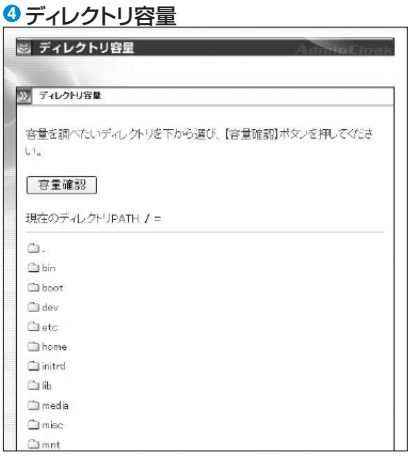


❷ CPU・メモリ



❸ ディスク容量

❹ ディレクトリ容量



第3章

AdminCloakの更新・アンインストール

1．AdminCloakの更新 28

2．AdminCloakのアンインストール 29

1. AdminCloakの更新

AdminCloakのバージョンアップをおこなう手順を説明します。

1 CD-ROMからファイルをコピーします。※

※ *http://online.atworks.co.jp/* よりダウンロードされた場合は、該当ファイルを/usr/local/srcに配置してください。

```
[root@localhost /]# mount -t iso9660 -r /dev/cdrom /mnt
[root@localhost /]# ls /mnt
adcl_installer-1.5.1.1-16.tar.gz
[root@localhost /]# cp /mnt/adcl_install-1.5.1.1-16.tar
.gz /usr/local/src/
[root@localhost /]# cd /usr/local/src/
[root@localhost src]#
```

❶ CD-ROMをマウントします。
mount -t iso9660 -r /dev/cdrom /mnt

❷ ファイルを確認します。
ls /mnt

❸ ファイルをコピーします。
cp /mnt/adcl_install-【新バージョン名】.tar.gz /usr/local/src

❹ ディレクトリに移動します。
cd /usr/local/src

2 ファイルを解凍します。

```
[root@localhost src]# tar xvfz adcl_installer-1.5.1.1-1
6.tar.gz
adcl_installer-1.5.1.1-16/
adcl_installer-1.5.1.1-16/mailserver/
adcl_installer-1.5.1.1-16/mailserver/qmail-script
adcl_installer-1.5.1.1-16/mailserver/Makefile.orig
adcl_installer-1.5.1.1-16/mailserver/domainname
adcl_installer-1.5.1.1-16/mailserver/randpass.php
adcl_installer-1.5.1.1-16/mailserver/mailserver.sh
adcl_installer-1.5.1.1-16/download_url
adcl_installer-1.5.1.1-16/LICENCE
adcl_installer-1.5.1.1-16/README
adcl_installer-1.5.1.1-16/rpms/
adcl_installer-1.5.1.1-16/rpms/adcl-1.5.1.1-16.i386.rpm
adcl_installer-1.5.1.1-16/rpms/adcl-1.5.1.1-16.i386.rpm
.md5
adcl_installer-1.5.1.1-16/install.sh
[root@localhost src]# cd adcl_installer-1.5.1.1-16
[root@localhost adcl_installer-1.5.1.1-16]#
```

❶ ファイルを解凍します。
tar xvfz adcl_installer-【新バージョン名】.tar.gz

❷ ディレクトリに移動します。
cd adcl_installer-【新バージョン名】

3 AdminCloakのアップデートをおこないます。

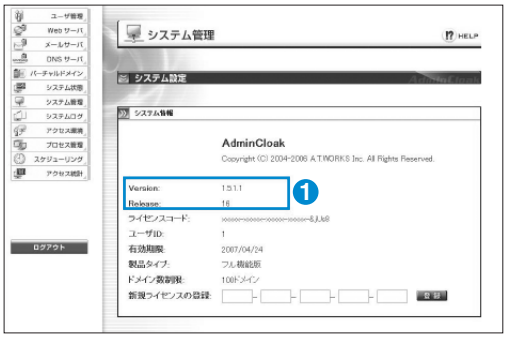
```
[root@localhost adcl_installer-1.5.1.1-16]# ./install.sh update
-----------------------------------------------------------
```

❶ コマンドを実行します。
./install.sh update

```
httpd_sak.masterは停止しています
httpd_sakを起動中:
[root@localhost adcl_installer-1.5.1.1-16]#
```

❷ 右の図のように終了していることを確認します（エラーで終わっていないことを確認してください）。

4 バージョンを確認します。



❶【システム管理】⇒【システム設定】の“Version”と“Release”を確認します。

アップデートに使用したファイルの【新バージョン名】と同じであることを確認します。

2. AdminCloakのアンインストール

AdminCloakの停止と削除方法を説明します。

■ 管理プログラムの停止方法

AdminCloakの管理機能を停止する場合は、次の手順を実行します。
サーバに設定されている機能は、引き続きお使いいただけます。

1 次のコマンドを実行し、管理プログラムを停止します。

❶ # /etc/init.d/httpd_sakctl stop

❷ # /sbin/chkconfig httpd_sakctl off

※管理プログラムを再開する場合は、次のコマンドを実行します。

/etc/init.d/httpd_sakctl start

/sbin/chkconfig httpd_sakctl on

■ 管理プログラム削除方法（アンインストール）

AdminCloakの管理プログラムをサーバから削除（アンインストール）する場合は、次の手順を実行します。

1 「バーチャルドメイン」⇒「ドメイン一覧・削除」（P48）より、バーチャルドメインを全て削除します。

! バーチャルドメインが残った状態で管理プログラムの削除をおこなうと再度AdminCloakをインストールしても、正常に動作いたしません。再インストールをおこなう場合は、必ず削除をおこなってください。

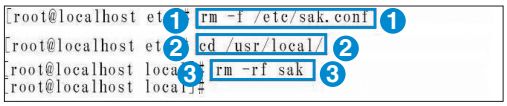
2 上記の「管理プログラムの停止方法」を実行します。

3 次のコマンドを実行し、ファイルとディレクトリを削除します。

❶ # rm -f /etc/sak.conf

❷ # cd /usr/local/

❸ # rm -rf sak



4 これで、アンインストールは完了です。

第4章

機能説明

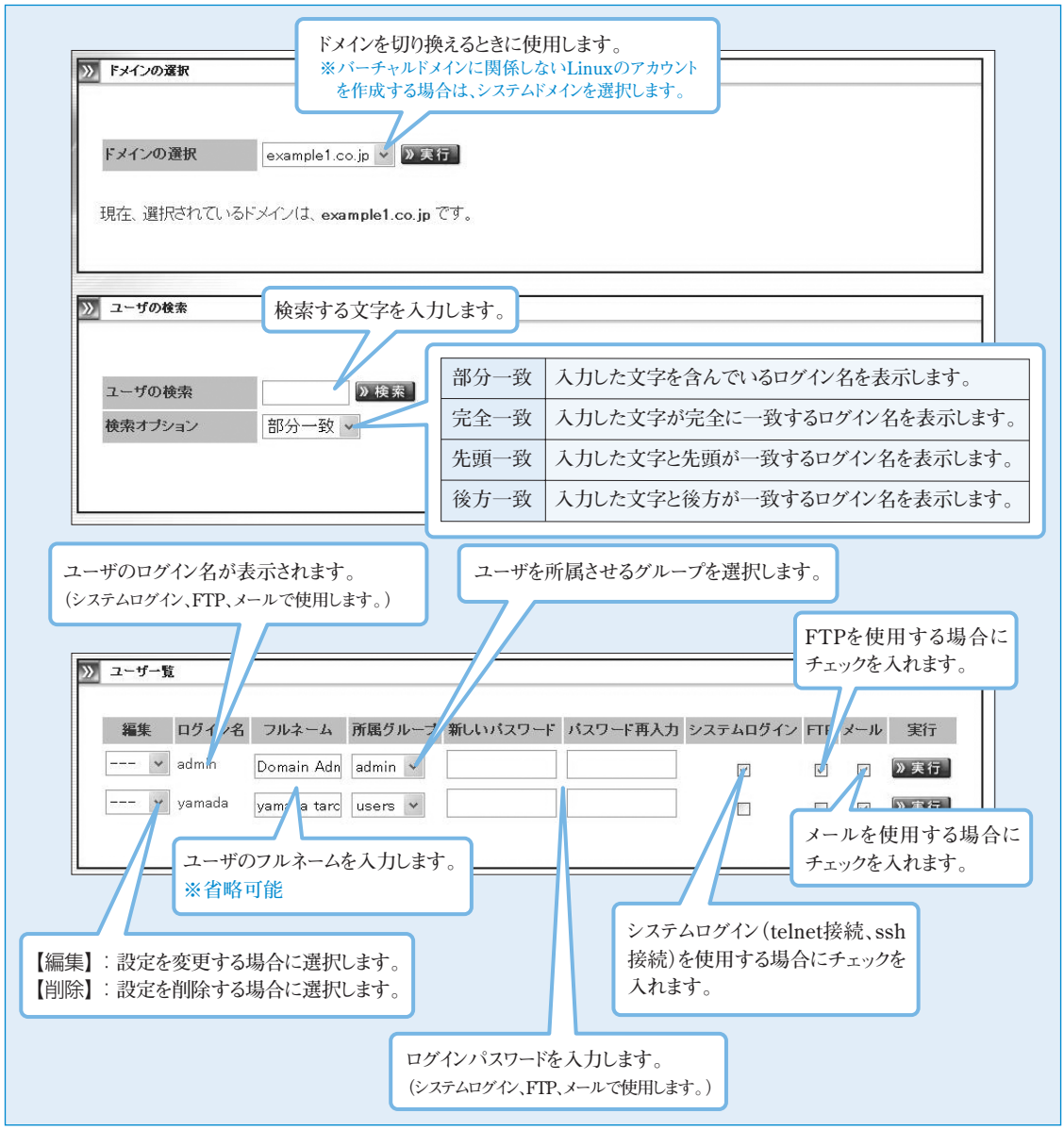
1．ユーザ管理	32
2．Webサーバ	39
3．メールサーバ	42
4．DNSサーバ	44
5．バーチャルドメイン	47
6．システム状態	52
7．システム管理	56
8．システムログ	61
9．アクセス環境	62
10．プロセス管理	69
11．スケジューリング	70
12．アクセス統計	72

1. ユーザ管理

■ ユーザ一覧・削除 ……32
■ ユーザ追加 ……34
■ グループ一覧・削除 …35
■ グループ追加……36
■ メール転送 ……37

ユーザ一覧・削除

ユーザ情報を確認・変更・削除する場合に使用します。



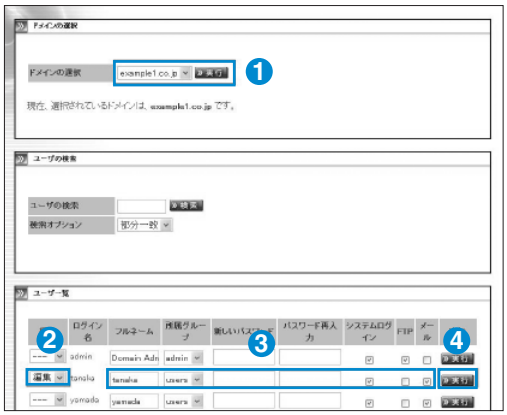
■ ユーザ情報を変更する場合

❶ ユーザが所属するドメインを選択し、「**実行**」ボタンをクリックします。
【ユーザ一覧】にユーザが表示されます。

❷ 変更するユーザを選び、【編集】を選択します。

❸ 設定内容を変更します。

❹ 「**実行**」ボタンをクリックします。



■ ユーザを削除する場合

❶ ユーザが所属するドメインを選択し、「**実行**」ボタンをクリックします。
【ユーザ一覧】にユーザが表示されます。

❷ 削除するユーザを選び、【削除】を選択します。

❸ 「**実行**」ボタンをクリックします。

■ ユーザを検索する場合

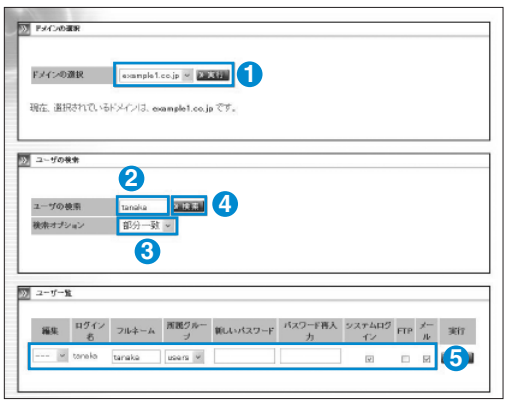
❶ ユーザが所属するドメインを選択し、「**実行**」ボタンをクリックします。
【ユーザ一覧】にユーザが表示されます。

❷ 検索する文字列を入力します。

❸ 【検索オプション】を選択します。

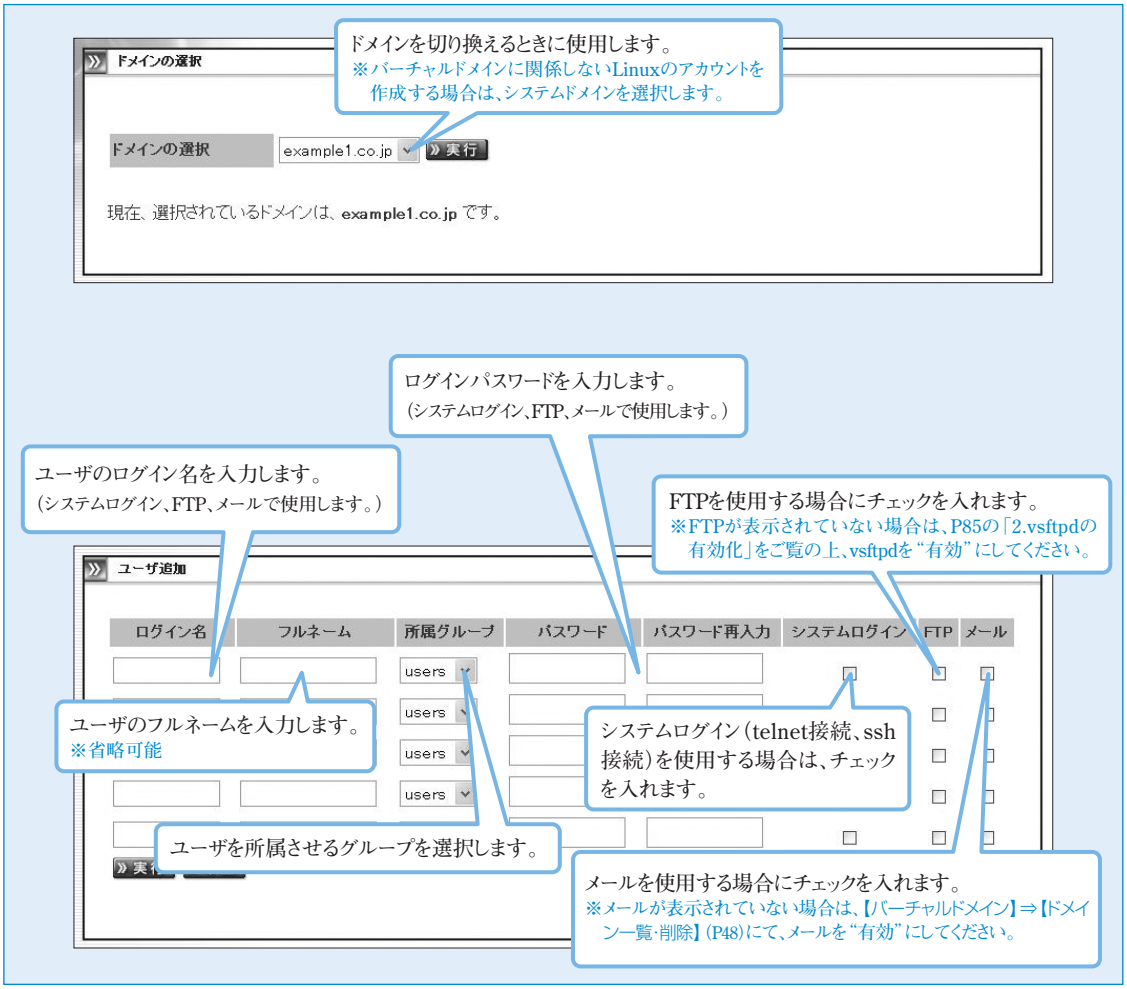
❹ 「**検索**」ボタンをクリックします。

❺ 【ユーザ一覧】にユーザが表示されます。



ユーザ追加

ドメインにユーザを追加する場合に使用します。
ユーザを追加すると、該当ユーザはメールの送受信・SSH・TELNET・FTPが使用できるようになります。



■ ユーザを追加する場合

❶ ユーザを追加するドメインを選択し、**「実行」**ボタンをクリックします。

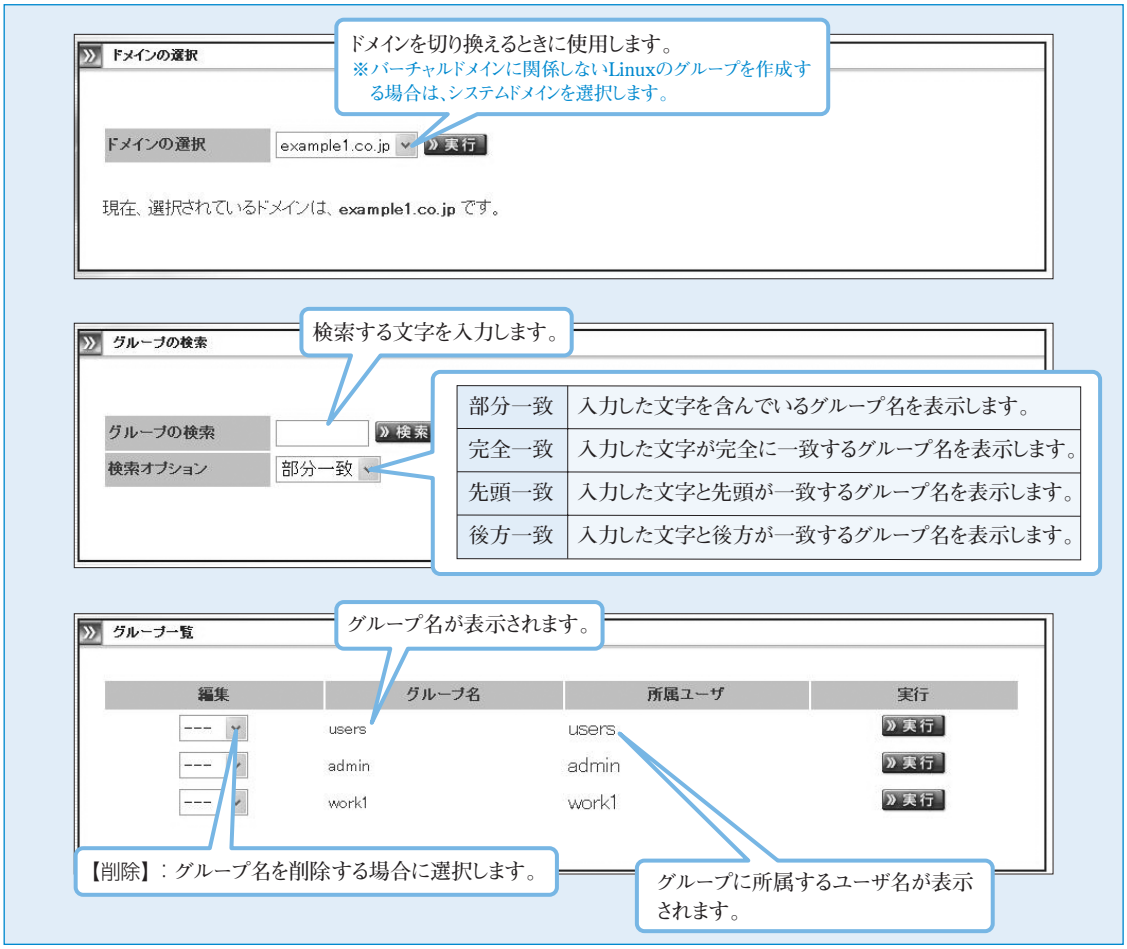
❷ ユーザ情報を入力します。

❸ **「実行」**ボタンをクリックします。

追加したユーザは、【ユーザ管理】⇒【ユーザ一覧・削除】で確認することができます。

グループ一覧・削除

グループ情報を確認・削除する場合に使用します。



■ グループ名を検索する場合

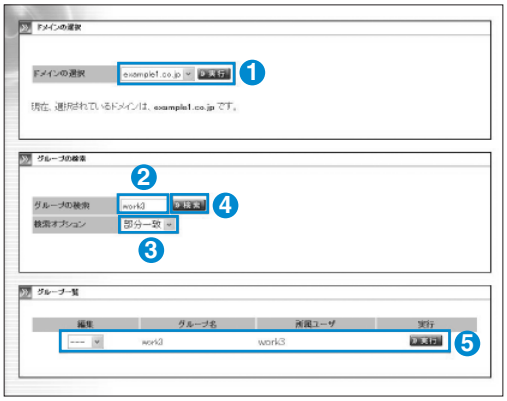
❶ グループが所属するドメインを選択し、**「実行」**ボタンをクリックします。【グループ一覧】にグループ名が表示されます。

❷ 検索する文字列を入力します。

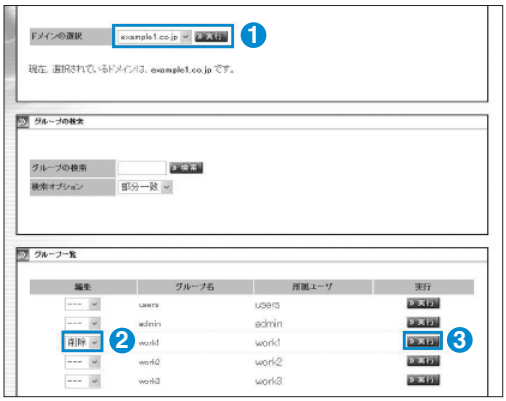
❸ 【検索オプション】を選択します。

❹ **「検索」**ボタンをクリックします。

❺ 【グループ一覧】にグループ名が表示されます。



■ グループ名を削除する場合



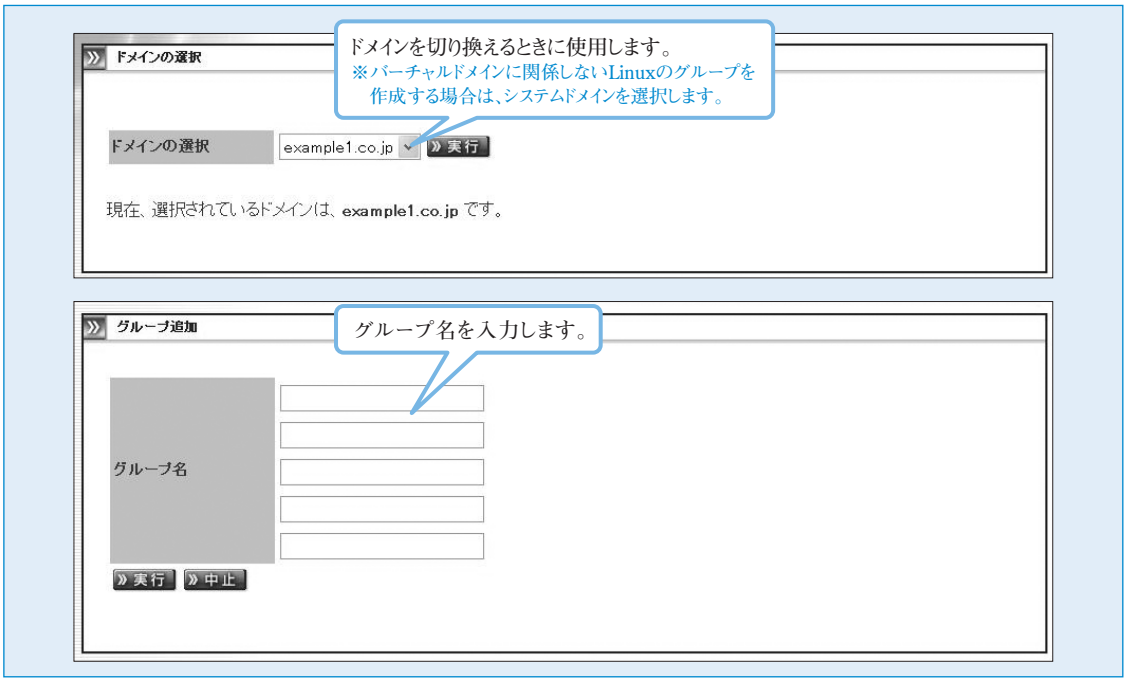
❶ グループが所属するドメインを選択し、「**実行**」ボタンをクリックします。【グループ一覧】にグループ名が表示されます。

❷ 削除するグループ名を選び、【削除】を選択します。

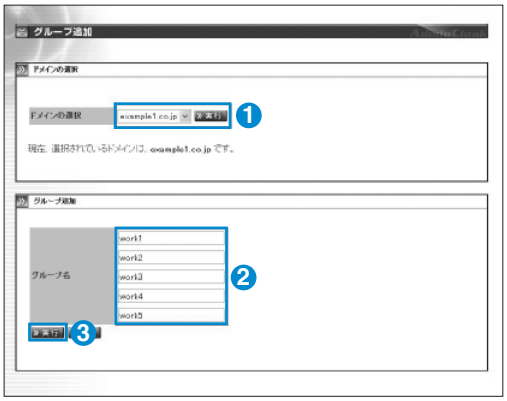
❸ 「**実行**」ボタンをクリックします。

グループ追加

グループを追加する場合に使用します。



■ グループを追加する場合



❶ グループを追加するドメインを選択し、「**実行**」ボタンをクリックします。

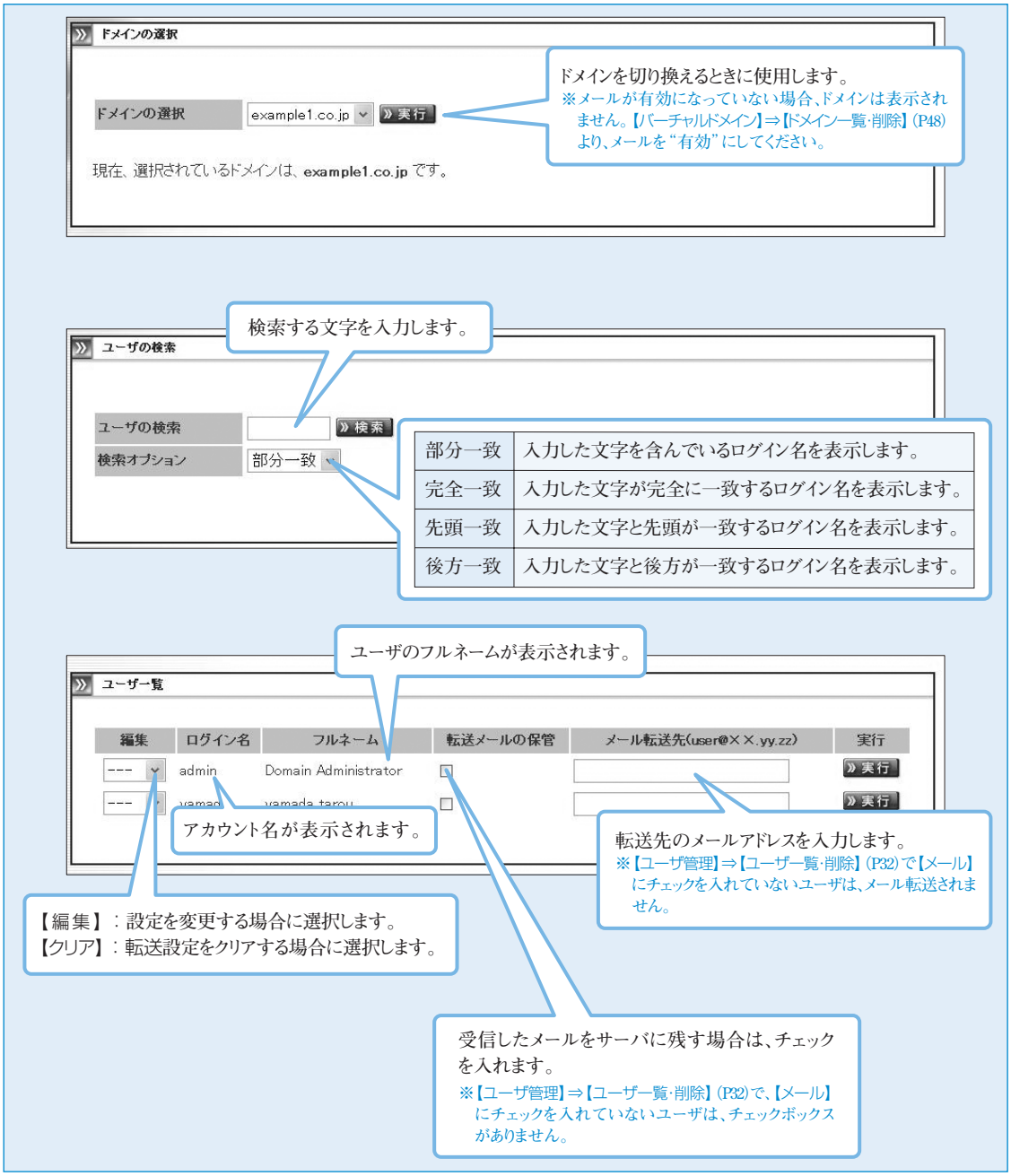
❷ グループ名を入力します。

❸ 「**実行**」ボタンをクリックします。

追加したグループ名は、【ユーザ管理】⇒【グループ一覧・削除】で確認することができます。

メール転送

受信したメールを他のメールアドレスへ転送する場合に使用します。



■ メールの転送先を設定する場合

❶ ユーザが所属するドメインを選択し、「**実行**」ボタンをクリックします。

❷ メールを転送するユーザを選び、【編集】を選択します。
※ユーザ数が多くなり希望のユーザが見つからない場合は、【ユーザ検索】をご使用ください。

❸ メールを転送元に保管する場合は、チェックを入れます。

❹ 【メール転送先】に、転送先のメールアドレスを入力します。
※複数の転送先を設定する場合
例）yamada@examle1.co.jp,tanaka@example1.co.jp

❺ 「**実行**」ボタンをクリックします。

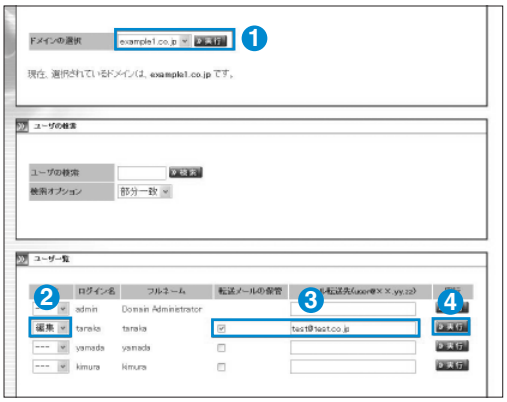
■ メールの転送先を編集する場合

❶ ユーザが所属するドメインを選択し、「**実行**」ボタンをクリックします。
【ユーザ一覧】にユーザが表示されます。

❷ 転送先を編集するユーザを選び、【編集】を選択します。

❸ 設定内容を変更します。

❹ 「**実行**」ボタンをクリックします。



■ メールの転送をやめる場合

❶ ユーザが所属するドメインを選択し、「**実行**」ボタンをクリックします。
【ユーザ一覧】にユーザが表示されます。

❷ メールの転送をやめるユーザを選び、【クリア】を選択します。

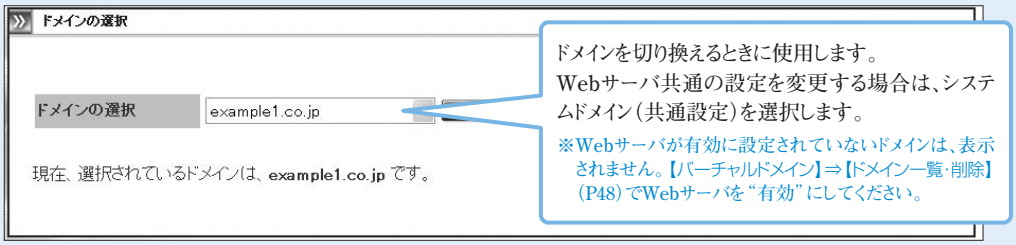
❸ 「**実行**」ボタンをクリックします。

2. Webサーバ

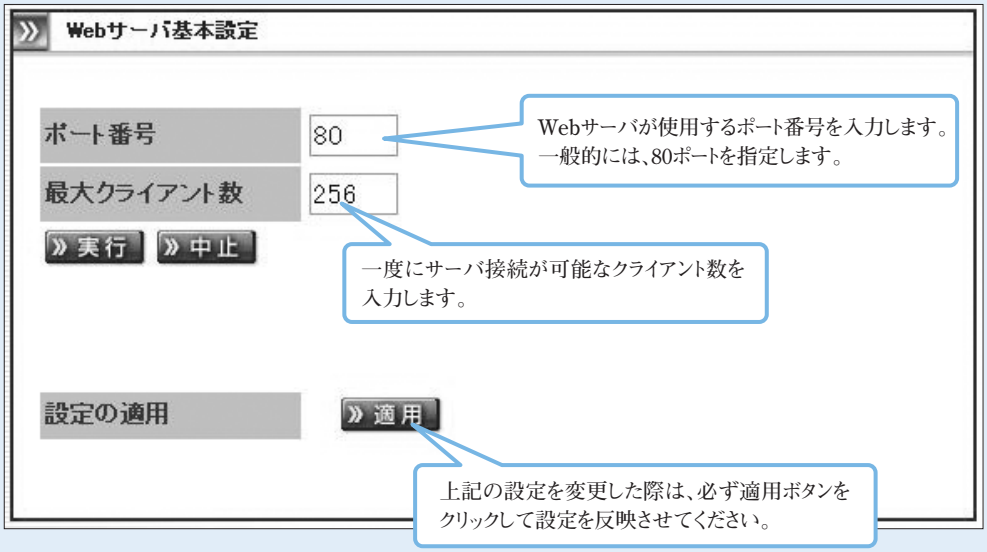
■ 基本設定 ……39

基本設定

Webサーバの設定を変更する場合に使用します。
ホームページ公開に必要なコンテンツのアップロード先や、SSI・CGIの設定などをおこないます。



【ドメイン選択】で「システムドメイン（共通設定）」を選択した場合に表示される画面です。



【ドメイン選択】で「システムドメイン（共通設定）」以外を選択した場合に表示される画面です。

Webサーバ基本設定

サーバネーム	example1.co.jp
ドキュメントルート	/domain/example1.co
管理者メールアドレス	admin@example1.co.jp
エラーログ	logs/example1.co.jp-error_log

index.htmlなどのコンテンツ設置場所を設定します。

管理者のメールアドレスを入力します。
Webサーバ内でトラブルが発生した場合の連絡先です。

エラーログの記録先を入力します。
エラーログは、Webサーバ内でトラブルが発生した場合に記録されます。【システムログ】⇒【ログ表示】（P61）で、ログを確認できます。

カスタムログの記録先を入力します。
カスタムログは、Webサーバにアクセスした場合に記録されます。【システムログ】⇒【ログ表示】（P61）で、ログの内容を確認できます。

カスタムログの記録形式を選択します。

common	アクセス時間と閲覧ページが記録される。
referer	アクセス元のサイト情報が記録される。
agent	アクセスに用いられたブラウザ種別が記録される。
combined	“common”、“referer”、“agent”を組み合わせた情報が記録される。

※combined以外を選択した場合、アクセス統計は機能しなくなりますのでご注意ください。

カスタムログ　logs/example1.co.jp-access_log　combined

カスタムログのフォーマットを変更した場合には、
アクセス統計機能の解析対象外となります。

SSI許可 ☐
CGI許可 ☐

» 実行　» 中止

ホームページでSSI・CGIを使用する場合にチェックをいれます。

設定が変更されています。設定を適用させるには、“適用”ボタンを押してください。

設定の適用　» 適用

変更した設定を反映させます。

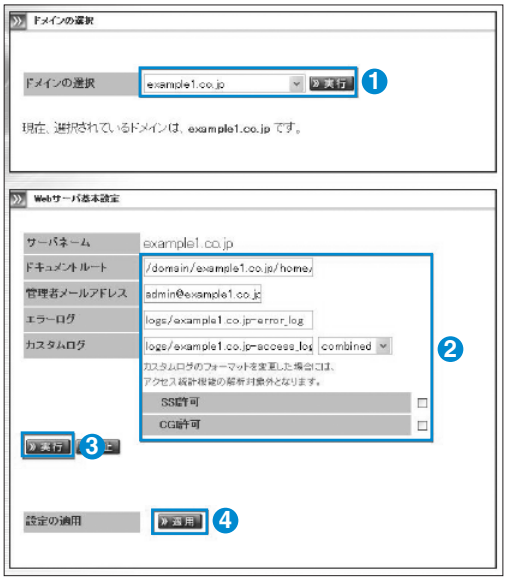
■ Webサーバの設定を変更する場合（各ドメインごとの設定）

❶ 設定を変更するドメインを選択し、**「実行」**ボタンをクリックします。

❷ 設定内容を変更します。

❸ **「実行」**ボタンをクリックします。

❹ **「適用」**ボタンをクリックし、設定を反映させます。



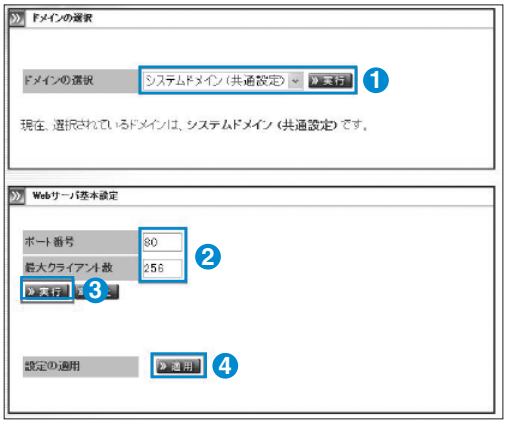
■ Webサーバの設定を変更する場合（共通設定）

❶ システムドメイン（共通設定）を選択し、**「実行」**ボタンをクリックします。

❷ 設定内容を変更します。

❸ **「実行」**ボタンをクリックします。

❹ **「適用」**ボタンをクリックし、設定を反映させます。

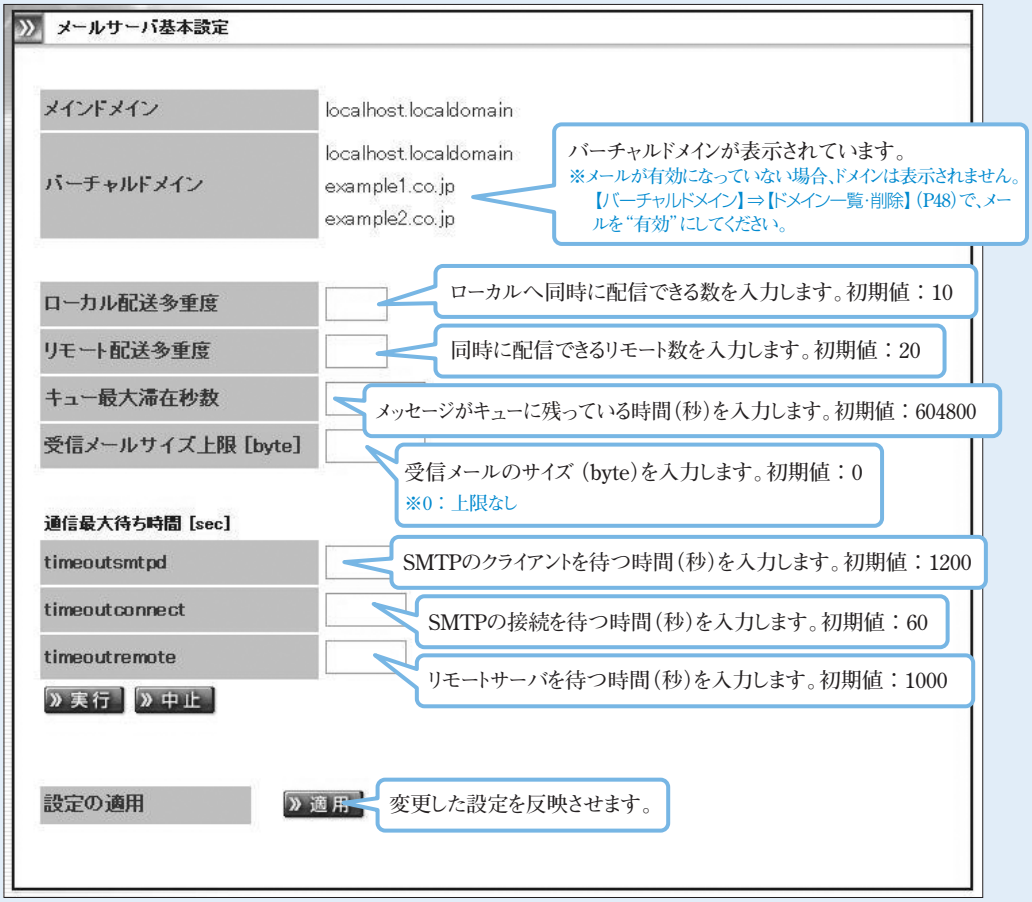


3. メールサーバ

■ 基本設定 ……42

基本設定

メールサーバの設定内容を確認・変更する場合に使用します。



! 設定内容が空欄の項目は、初期値が設定されます。

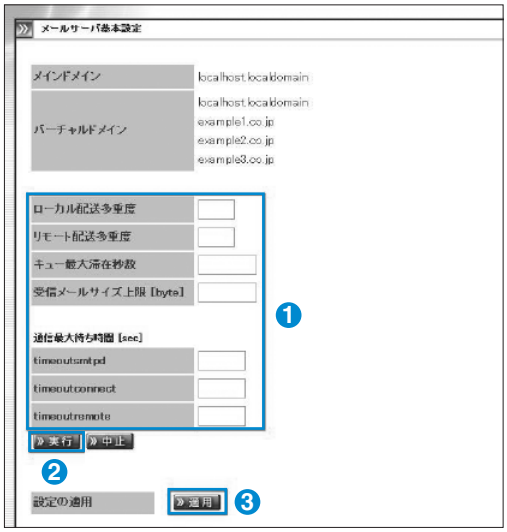
■ 設定を変更する場合

❶ それぞれの項目に必要事項を入力します。

設定内容が空欄の項目は、初期値が設定されます。

❷ 「**実行**」ボタンをクリックします。

❸ 「**適用**」ボタンをクリックし、変更した内容を反映させます。

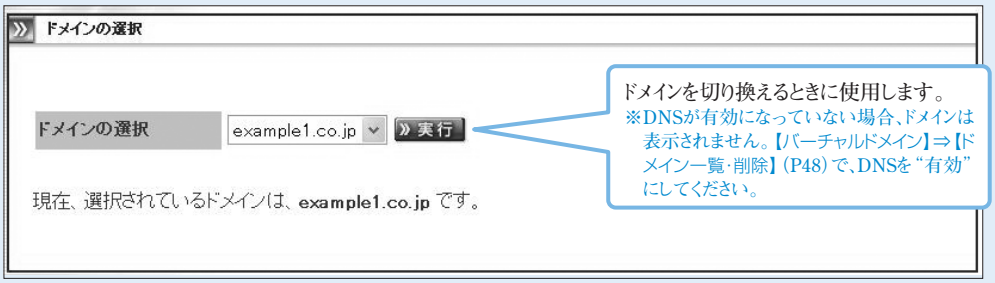


4. DNSサーバ

■レコード追加・削除 ……44

レコード追加・削除

DNSサーバの確認・レコードの追加・削除をおこなう場合に使用します。

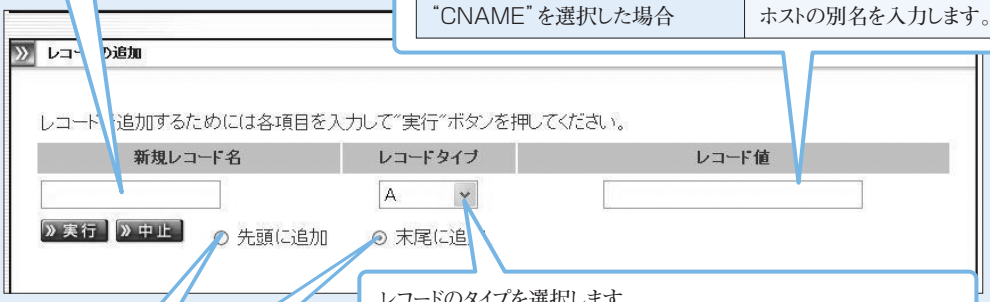


ドメインを切り換えるときに使用します。
※DNSが有効になっていない場合、ドメインは表示されません。【バーチャルドメイン】⇒【ドメイン一覧・削除】(P48)で、DNSを“有効”にしてください。

レコード名を入力します。
ただし、【レコードタイプ】が“NS”、“MX10”、“MX30”の場合は、省略できます。

レコード値を入力します。

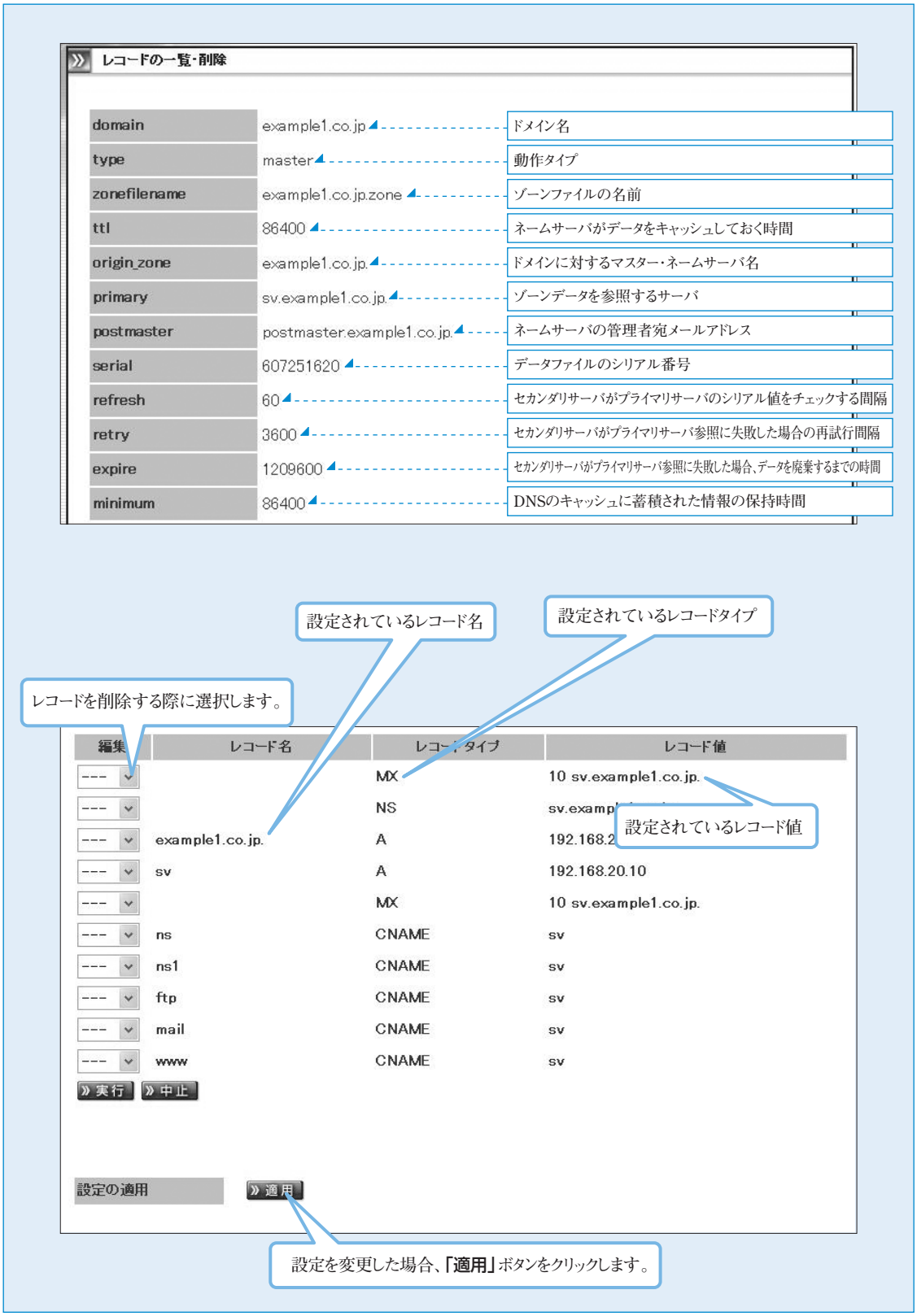
“A”を選択した場合	IPアドレスを入力します。
“NS”を選択した場合	DNSサーバを入力します。
“MX10／MX30”を選択した場合	メールサーバを入力します。
“CNAME”を選択した場合	ホストの別名を入力します。



レコードの追加する位置を選択します。
【先頭に追加】：先頭に追加します。
【末尾に追加】：末尾に追加します。

レコードのタイプを選択します。

A	ホスト名からIPアドレスへの対応を示すレコード
NS	ネームサーバを指定するレコード
MX10／MX30	メールサーバを指定するレコード (小さい数字ほど優先度が高くなります。)
CNAME	ホストの別名を指定するレコード


レコードの一覧・削除
domain
example1.co.jp
ドメイン名
type
master
動作タイプ
zonefilename
example1.co.jp.zone
ゾーンファイルの名前
ttl
86400
ネームサーバがデータをキャッシュしておく時間
origin_zone
example1.co.jp.
ドメインに対するマスター・ネームサーバ名
primary
sv.example1.co.jp.
ゾーンデータを参照するサーバ
postmaster
postmaster.example1.co.jp.
ネームサーバの管理者宛メールアドレス
serial
607251620
データファイルのシリアル番号
refresh
60
セカンダリサーバがプライマリサーバのシリアル値をチェックする間隔
retry
3600
セカンダリサーバがプライマリサーバ参照に失敗した場合の再試行間隔
expire
1209600
セカンダリサーバがプライマリサーバ参照に失敗した場合、データを廃棄するまでの時間
minimum
86400
DNSのキャッシュに蓄積された情報の保持時間
設定されているレコード名
設定されているレコードタイプ
レコードを削除する際に選択します。
編集
レコード名
レコードタイプ
レコード値
MX
10 sv.example1.co.jp.
NS
sv.examp
設定されているレコード値
example1.co.jp.
A
192.168.2
sv
A
192.168.20.10
MX
10 sv.example1.co.jp.
ns
CNAME
sv
ns1
CNAME
sv
ftp
CNAME
sv
mail
CNAME
sv
www
CNAME
sv
実行
中止
設定の適用
適用
設定を変更した場合、「適用」ボタンをクリックします。

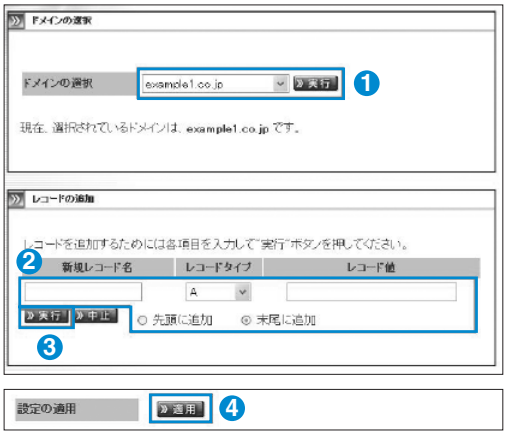
■ レコードを追加する場合

❶ レコードを追加するドメインを選択し、**「実行」**ボタンをクリックします。

❷ レコードを設定します。
⇒下記の「レコード設定例」をご覧ください。

❸ **「実行」**ボタンをクリックします。

❹ 画面の一番下にある**「適用」**ボタンをクリックして、設定を反映させます。



■ レコード設定例

example.co.jpのzone情報を追加する手順

❶ "NS" レコード
(例) sv.example.co.jpをexample.co.jpのネームサーバとして指定する場合、以下のように設定します。

【新規レコード名】	―
【レコードタイプ】	"NS" を選択
【レコード値】	sv.example.co.jp
【レコード追加位置】	"先頭に追加" を選択

❷ "MX" レコード
(例) sv.example.co.jpをメールサーバとして指定する場合、以下のように設定します。

【新規レコード名】	―
【レコードタイプ】	"MX10" を選択
【レコード値】	sv.example.co.jp
【レコード追加位置】	"先頭に追加" を選択

❸ "A" レコード
(例) sv.example.co.jpを192.168.20.1として指定する場合、以下のように設定します。

【新規レコード名】	sv.example.co.jp
【レコードタイプ】	"A" を選択
【レコード値】	192.168.20.1
【レコード追加位置】	"末尾に追加" を選択

❹ "CNAME" レコード
(例) www.example.co.jpをsv.example.co.jpの別名として指定する場合、以下のように設定します。

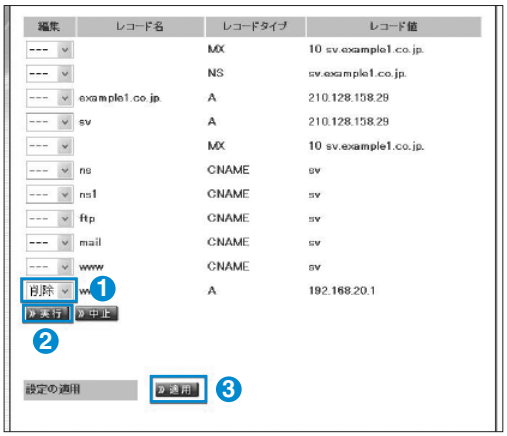
【新規レコード名】	www
【レコードタイプ】	"CNAME" を選択
【レコード値】	sv
【レコード追加位置】	"末尾に追加" を選択

■ レコードを削除する場合

❶ 削除するレコードを選び、【削除】を選択します。

❷ **「実行」**ボタンをクリックします。

❸ **「適用」**ボタンをクリックして、設定を反映させます。

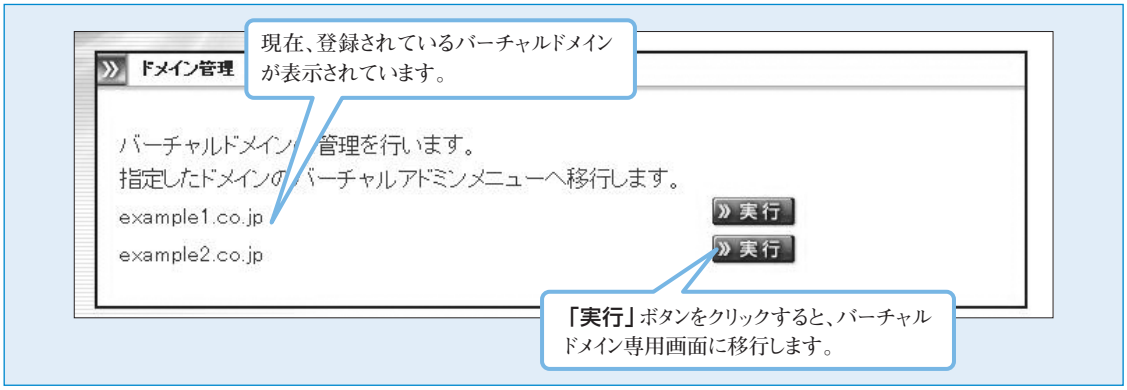


5. バーチャルドメイン

■ドメイン管理 ……47
■ドメイン一覧・削除 …48
■ドメイン追加 ……49
■ドメイン情報 ……50

ドメイン管理

バーチャルドメイン専用画面に移行する場合に使用します。

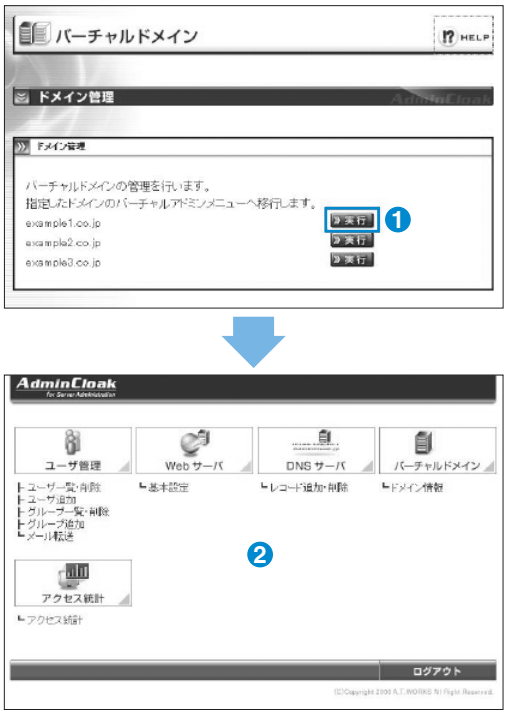


■ バーチャルドメイン専用画面に移行する場合

❶ バーチャルドメインを選択し、「**実行**」ボタンをクリックします。

❷ バーチャルドメイン専用画面が表示されます。

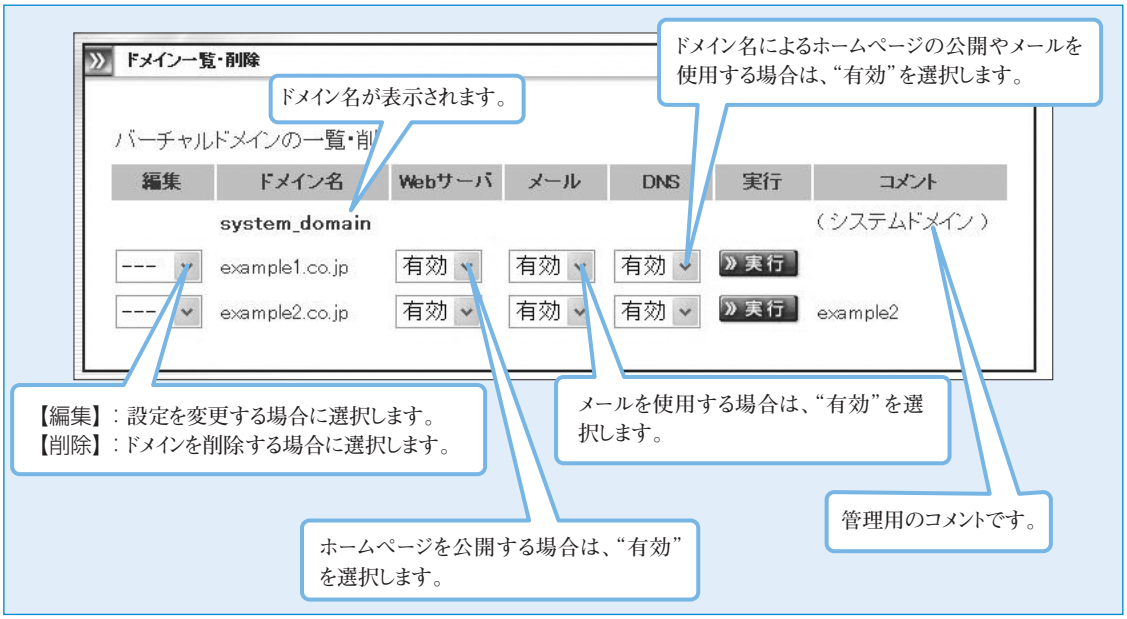
ドメイン毎の、【ユーザ管理】、【Webサーバ】、【DNSサーバ】、【バーチャルドメイン】、【アクセス統計】の設定ができます。



サーバ全体の管理画面に戻る場合は、一度ログアウトした後、再度ログインしてください。

ドメイン一覧・削除

バーチャルドメインを確認・変更・削除する場合に使用します。



■ ドメインの設定を変更する場合

❶ 変更するドメインを選び、【編集】を選択します。

❷ 各サービスの状態を変更します。

❸ 「**実行**」ボタンをクリックします。

! 【Webサーバ】、【DNS】の状態を変更した場合は、【システム管理】⇒【サービス起動・停止】（P59）によって、必ずサービスを再起動してください。

■ ドメインを削除する場合

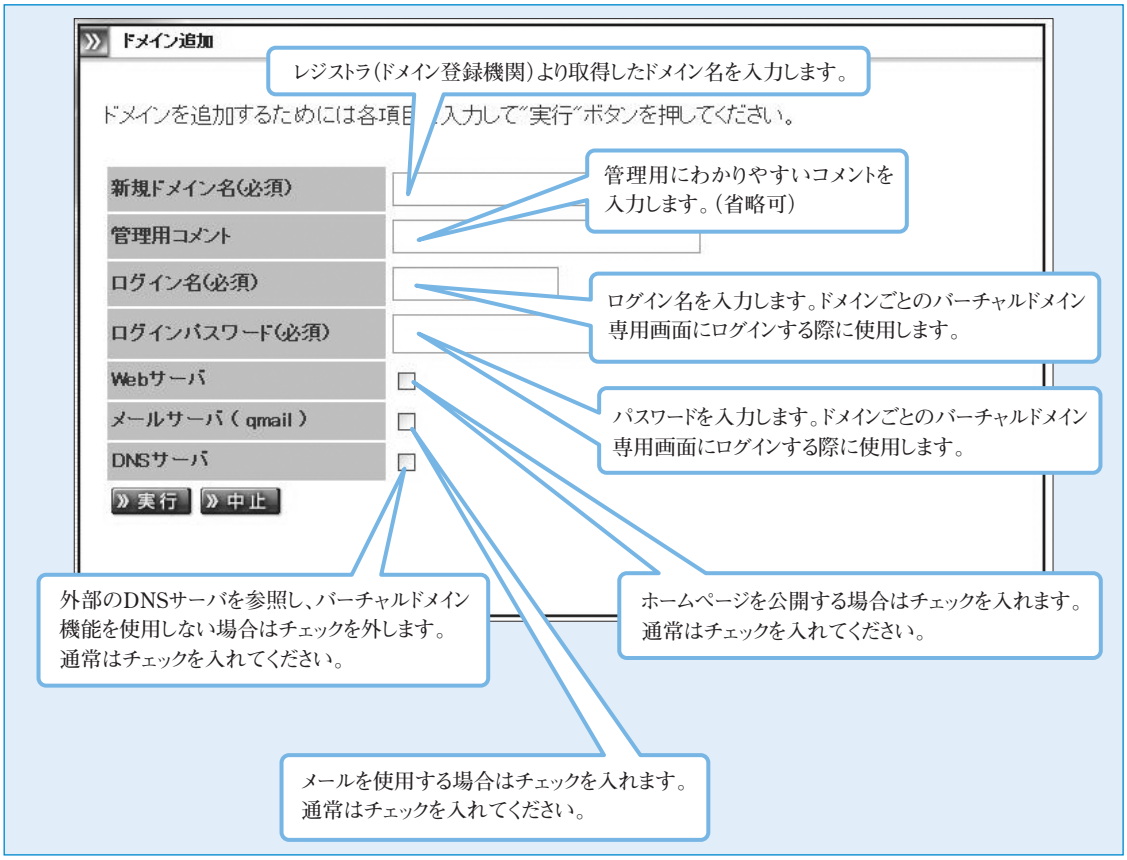
❶ 削除するドメインを選び、【削除】を選択します。

❷ 「**実行**」ボタンをクリックします。

! 【Webサーバ】、【DNS】の状態が“有効”のドメインを削除した場合は、【システム管理】⇒【サービス起動・停止】（P59）によって、必ずサービスを再起動してください。

ドメイン追加

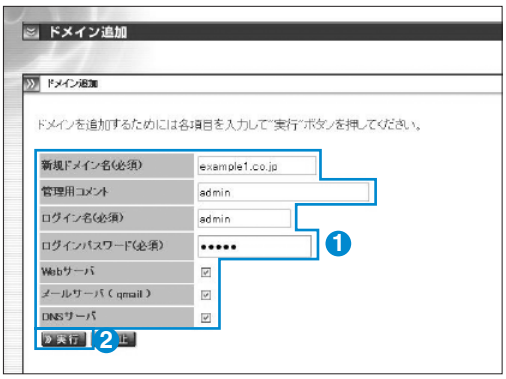
バーチャルドメインを追加する場合に使用します。



■ ドメインを追加する場合

❶ 各項目を入力します。

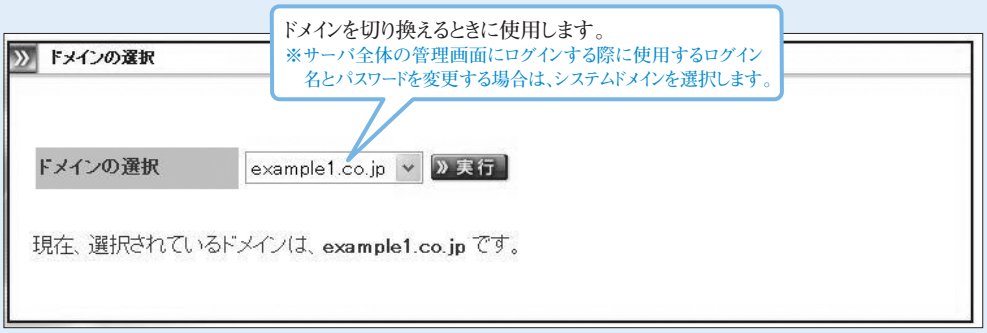
❷ 「**実行**」ボタンをクリックします。

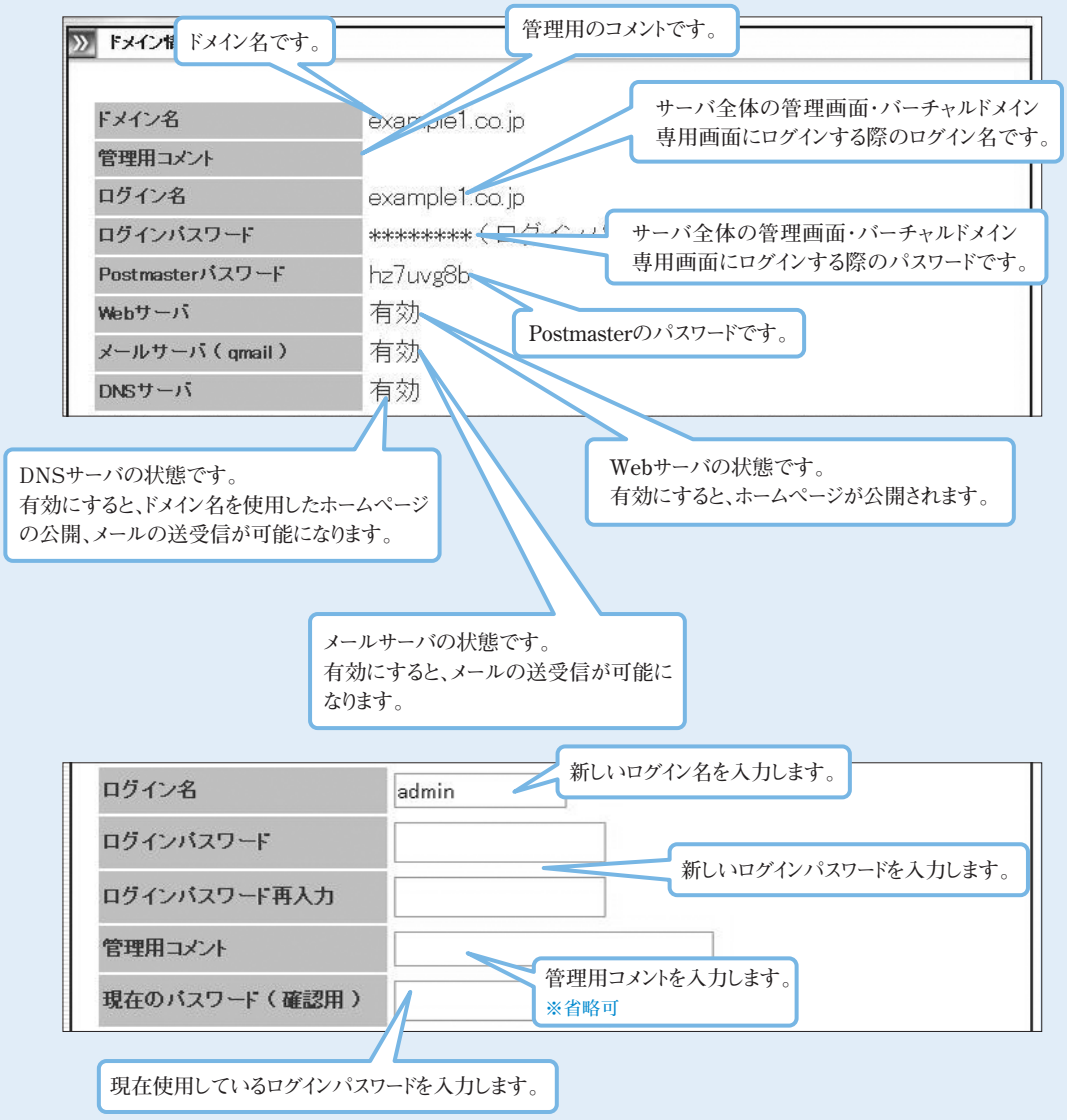


! 【Webサーバ】、【DNSサーバ】にチェックを入れた場合、【システム管理】⇒【サービス起動・停止】(P59)によって、必ずサービスを再起動してください。

ドメイン情報

ドメイン情報を確認・変更する場合に使用します。





■ ドメイン情報を確認する場合

❶情報を確認するドメインを選択し、「**実行**」ボタンをクリックします。

❷ドメイン情報が表示されます。

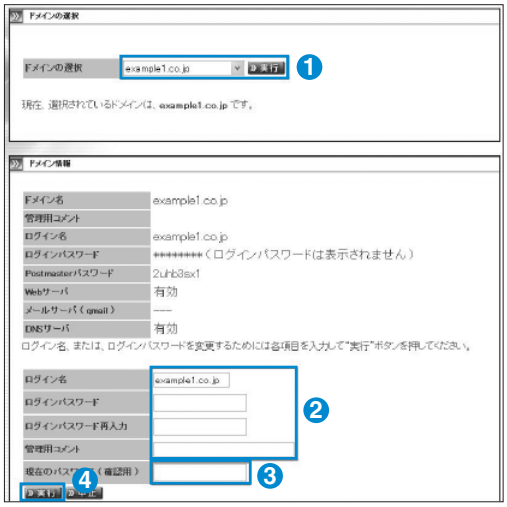
■ ドメイン情報を変更する場合

❶情報を変更するドメインを選択し、「**実行**」ボタンをクリックします。

❷設定内容を変更します。
※変更したい項目のみ入力します。

❸現在のパスワードを入力します。
※現在使用しているログインパスワードです。

❹「**実行**」ボタンをクリックします。

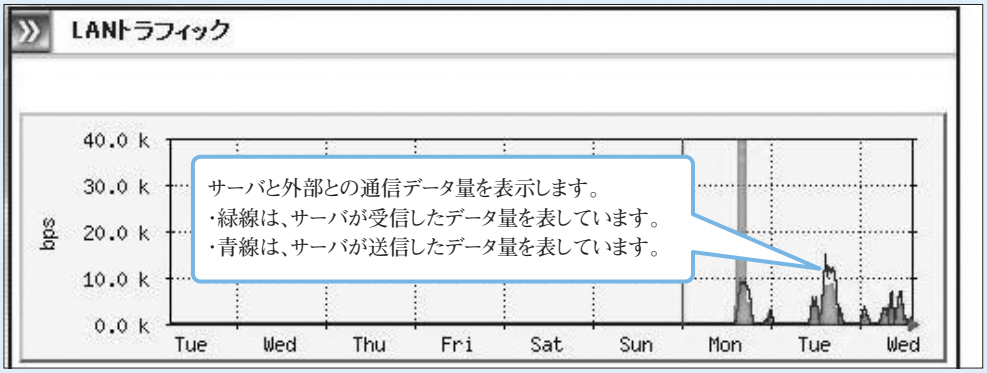


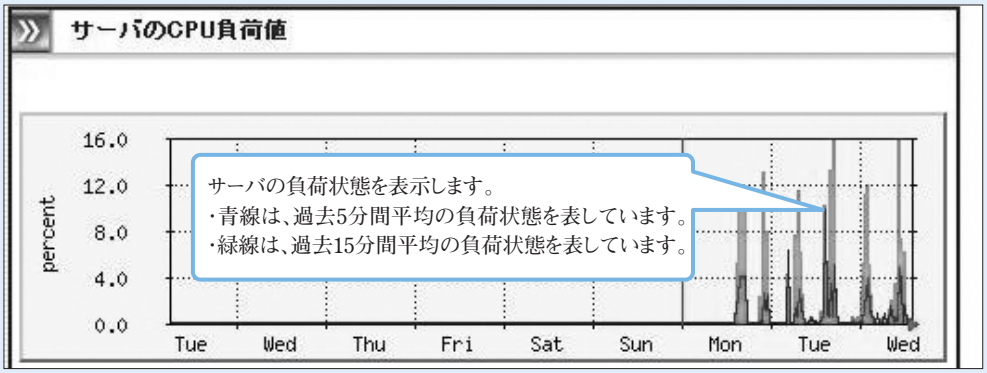
6. システム状態

■ グラフ表示 ……52
■ CPU・メモリ ……53
■ ディスク容量 ……54
■ ディレクトリ容量……55

グラフ表示

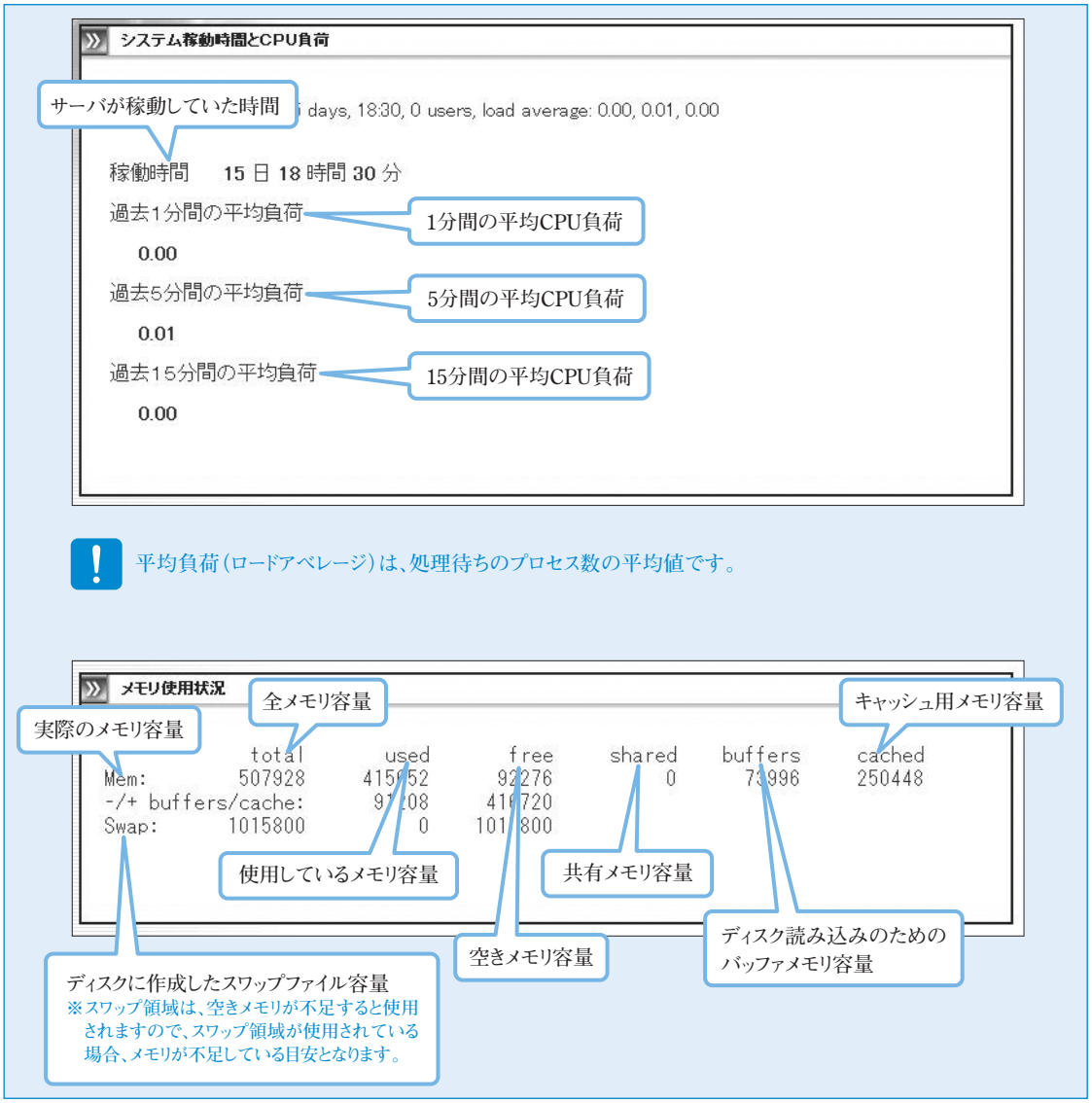
過去一週間のサーバの状態（LANトラフィック・CPU負荷・メモリ）が確認できます。





CPU・メモリ

現在のCPU負荷・メモリ使用状況の確認に使用します。



平均負荷（ロードアベレージ）は、処理待ちのプロセス数の平均値です。

ディスク容量

サーバのディスク容量を確認する場合に使用します。

ディスク容量

❶ 装置	❷ 全容量	❸ 使用領域	❹ 空き領域	❺ 使用率	❻ i-node使用率	❼ マウント
/dev/mapper/VolGroup00-LogVol00	37,356MB	1,416MB	34,043MB	4%	2%	/
/dev/hda1	99MB	9MB	85MB	10%	1%	/boot

❶ ハードディスク名

❷ ハードディスク全容量

❸ ハードディスク使用量

❹ ハードディスク空き容量

❺ ハードディスクの使用率

※ディスクの使用量が高くなるとサーバの各種ログが記録されなくなったり、メールの受信障害やCGIのデータが消失してしまう危険があります。不要なファイルやログはバックアップを取り、早めに削除するようにしましょう。

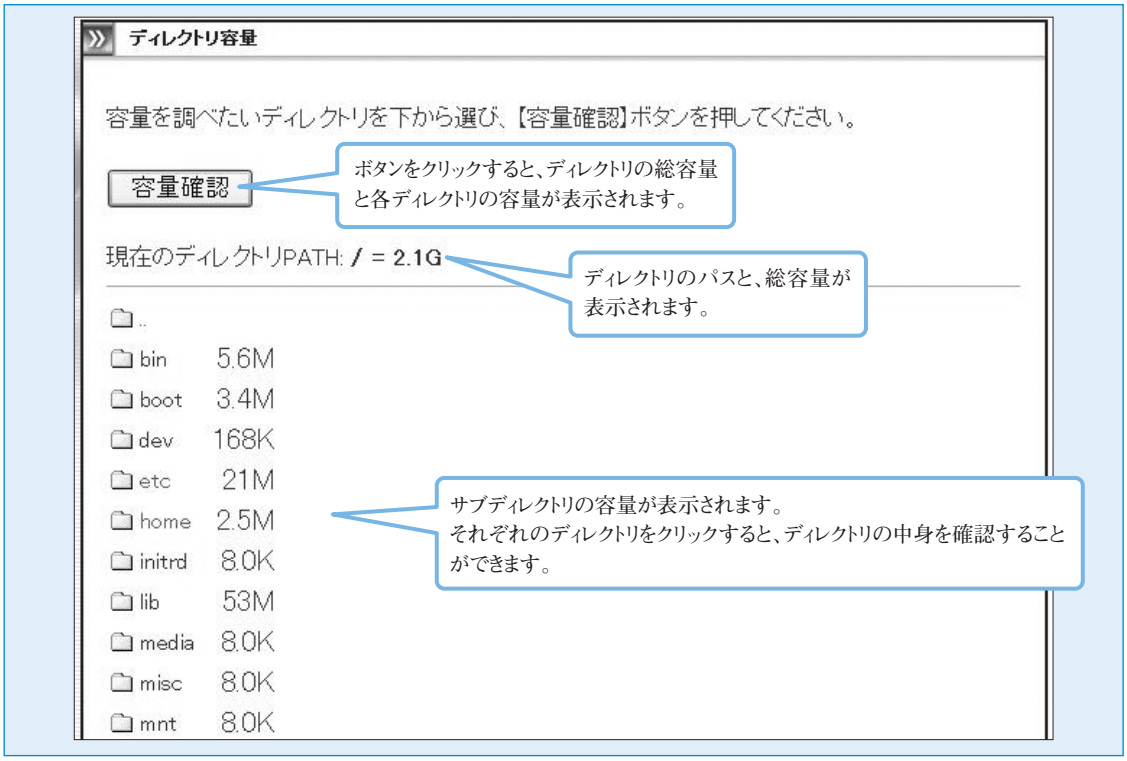
❻ ファイルやディレクトリの情報を収納しておく領域です。

※i-nodeは、ファイルやディレクトリに使用します。例えば、小さなファイルを大量に作成し、i-nodeが100%になった場合は、空き容量に余裕があっても新たにファイルを作成することができなくなります。

❼ ハードディスクがマウントされているディレクトリを表示します。

ディレクトリ容量

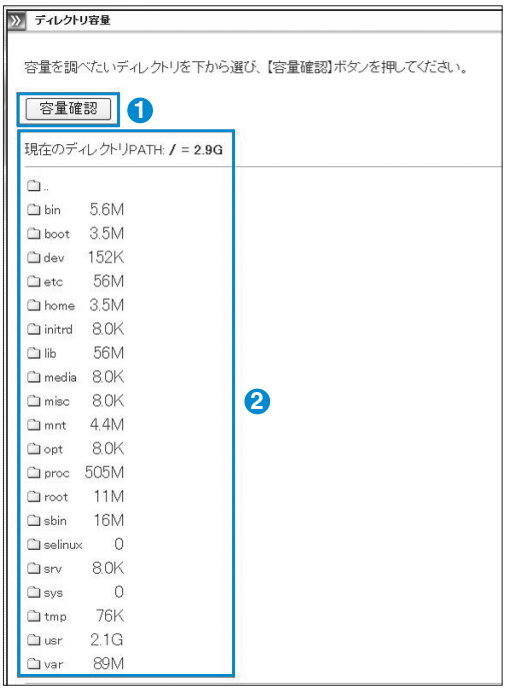
サーバのディレクトリ容量を確認する場合に使用します。



■ ディレクトリの容量を確認する場合

❶「**容量確認**」ボタンをクリックします。

❷ディレクトリの総容量と、ディレクトリごとの容量が表示されます。

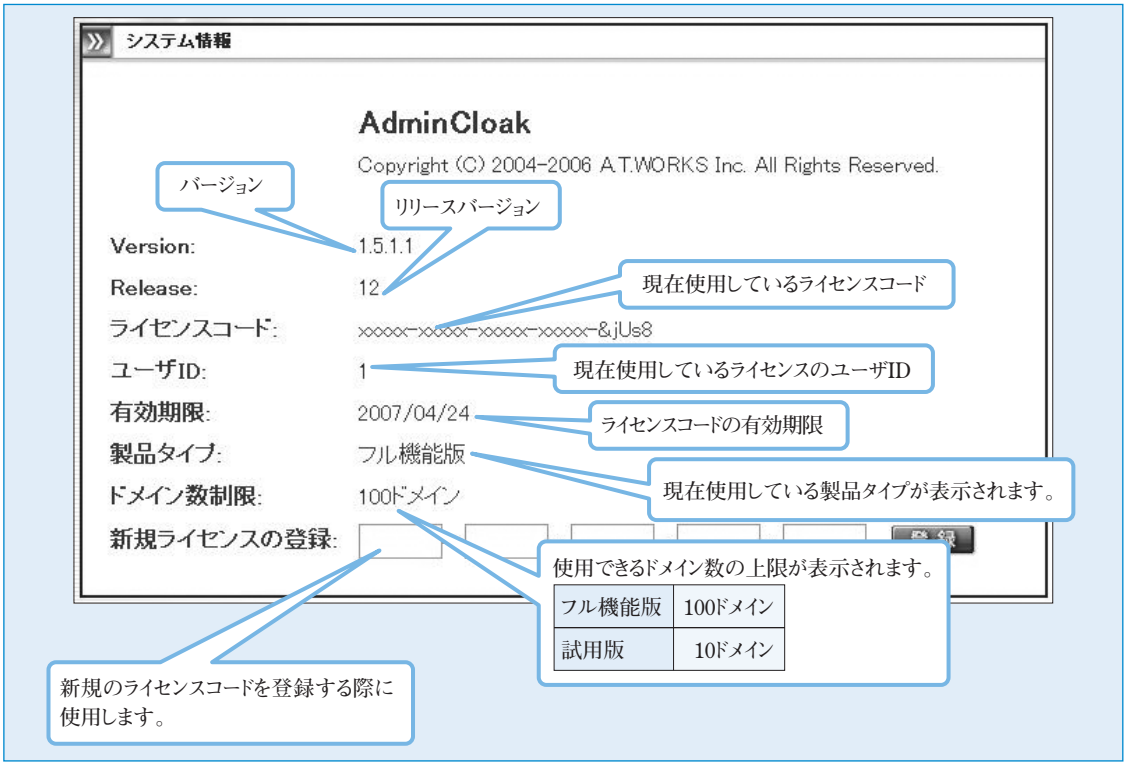


7. システム管理

■ システム設定 ……56
■ ネットワーク設定 ……57
■ 日付・時刻 ……58
■ サービス起動・停止 …59
■ システム再起動 ……60

システム設定

AdminCloakソフトウェアのバージョンの確認およびライセンスの確認・登録に使用します。



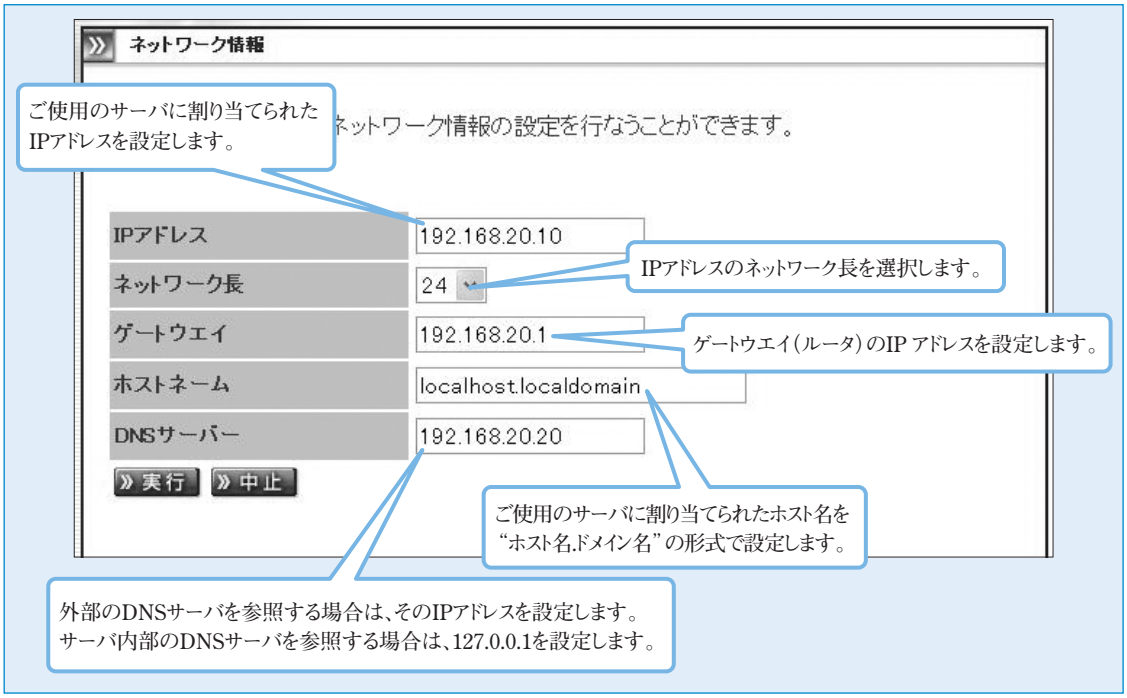
■ ライセンスを登録する場合

❶ 新規のライセンスコードを入力します。

❷「登録」ボタンをクリックします。

ネットワーク設定

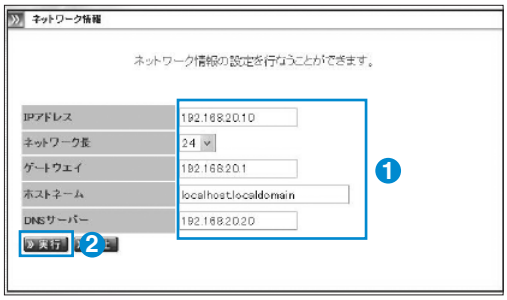
サーバのネットワーク設定の確認・変更時に使用します。



■ ネットワーク情報を変更する場合

❶ ネットワーク情報を変更します。
(例) IPアドレスを“192.168.20.10”、ネットワーク長を“24”に設定した場合、下記のアドレスが自動的に設定されます。

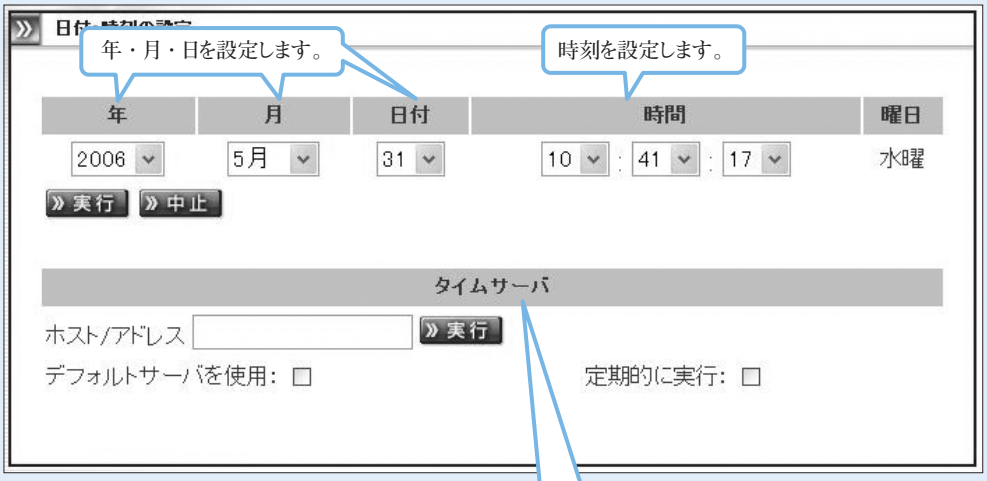
ネットワークアドレス	192.168.20.0
ブロードキャストアドレス	192.168.20.255



❷ 「**実行**」ボタンをクリックします。

日付・時刻

サーバに設定されている日付・時刻の確認・変更時に使用します。



タイムサーバとは、正確な時刻を提供するサーバです。
タイムサーバとNTP（Network Time Protocol）を利用して同期することで、正確な時刻をサーバに設定することができます。

■ホスト/アドレス
タイムサーバのホスト名やIPアドレスを入力します。
※ファイアウォールにより、パケットがフィルタリングされている場合は使用できません。

■デフォルトサーバを使用
デフォルトのタイムサーバの時刻と同期させる場合にチェックを入れます。
チェックを入れた場合は【ホスト/アドレス】を入力する必要がありません。

■定期的に実行
定期的に時刻を合わせる場合にチェックをいれます。
チェックを入れた場合は【ホスト/アドレス】また、【デフォルトサーバを使用】を設定する必要があります。

■ 手動で日付・時刻を設定する場合

❶日付・時刻を設定します。

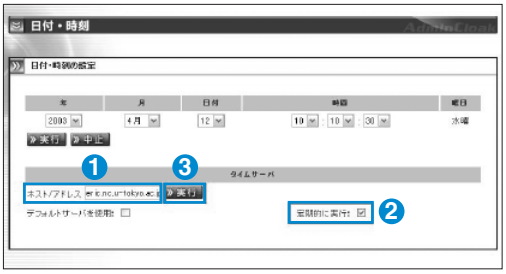
❷「**実行**」ボタンをクリックします。

■ 指定したタイムサーバを利用して日付・時刻を設定する場合

❶ タイムサーバのIPアドレス(または、ホスト名)を設定します。

❷ 定期的にタイムサーバを利用して日付・時刻を合わせる場合は【定期的に実行】にチェックを入れます。
※チェックを入れた場合は、毎日2時20分に時刻同期がおこなわれます。

❸ 「**実行**」ボタンをクリックします。

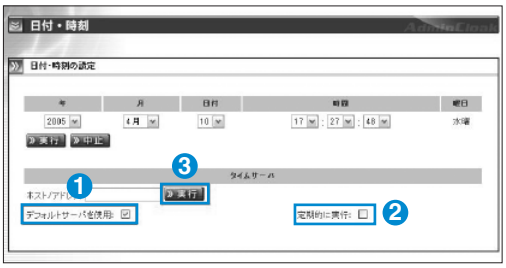


■ デフォルトのタイムサーバを利用して日付・時刻を設定する場合

❶ 【デフォルトサーバを使用】にチェックを入れます。

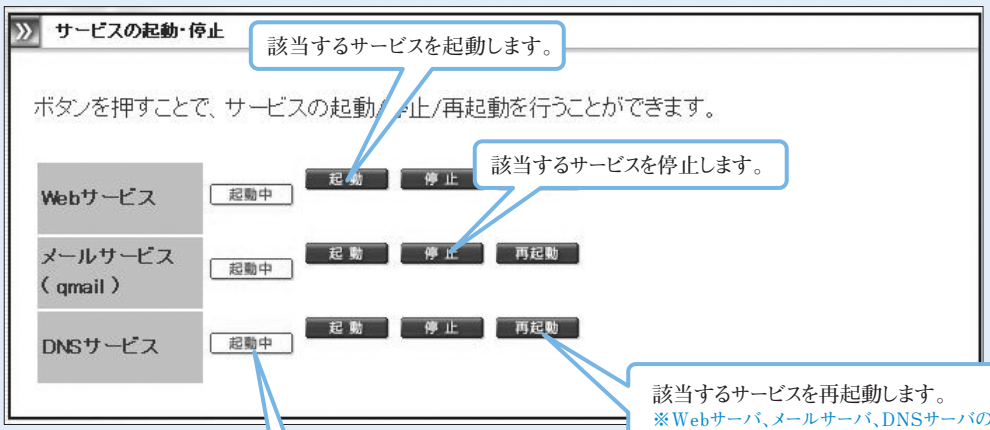
❷ 定期的にタイムサーバを利用して日付・時刻を合わせる場合は、【定期的に実行】にチェックを入れます。
※チェックを入れた場合は、毎日2時20分に時刻同期がおこなわれます。

❸ 「**実行**」ボタンをクリックします。



サービス起動・停止

各サービス(Webサービス・メールサービス・DNSサービス)の起動・停止・再起動をおこなう場合に使用します。



該当するサービスを再起動します。
※Webサーバ、メールサーバ、DNSサーバの設定を変更した場合や、ドメインを追加した場合は、設定を反映させるため再起動します。

各サービスの状態を表示しています。

起動中	サービスが起動している状態
停　止	サービスが停止している状態
不　明	サービスが不明な状態※

※P93の「9.SELinuxの無効化」をご覧ください。

■ サービスを起動する場合

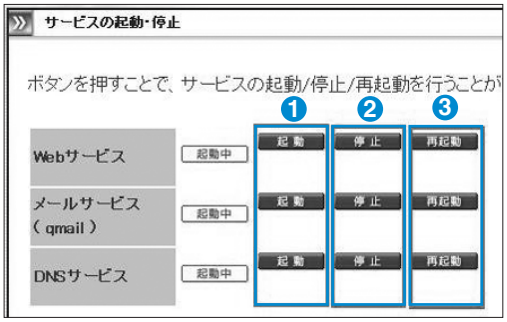
❶「起動」ボタンをクリックします。

■ サービスを停止する場合

❷「停止」ボタンをクリックします。

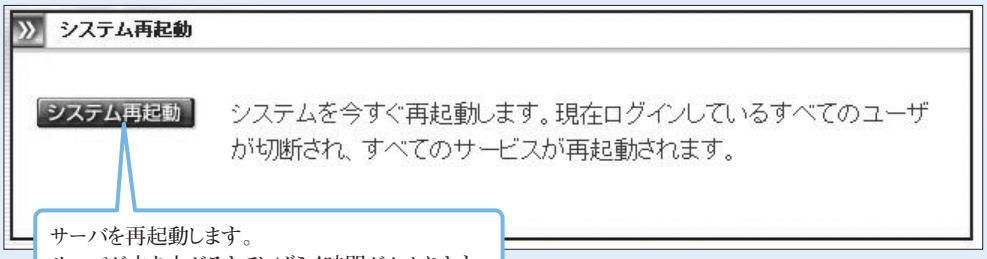
■ サービスを再起動する場合

❸「再起動」ボタンをクリックします。



システム再起動

サーバを再起動する場合に使用します。
ネットワーク設定を変更した場合などに、サーバを再起動する必要があります。



サーバを再起動します。
サーバが立ち上がるまでしばらく時間がかかります。

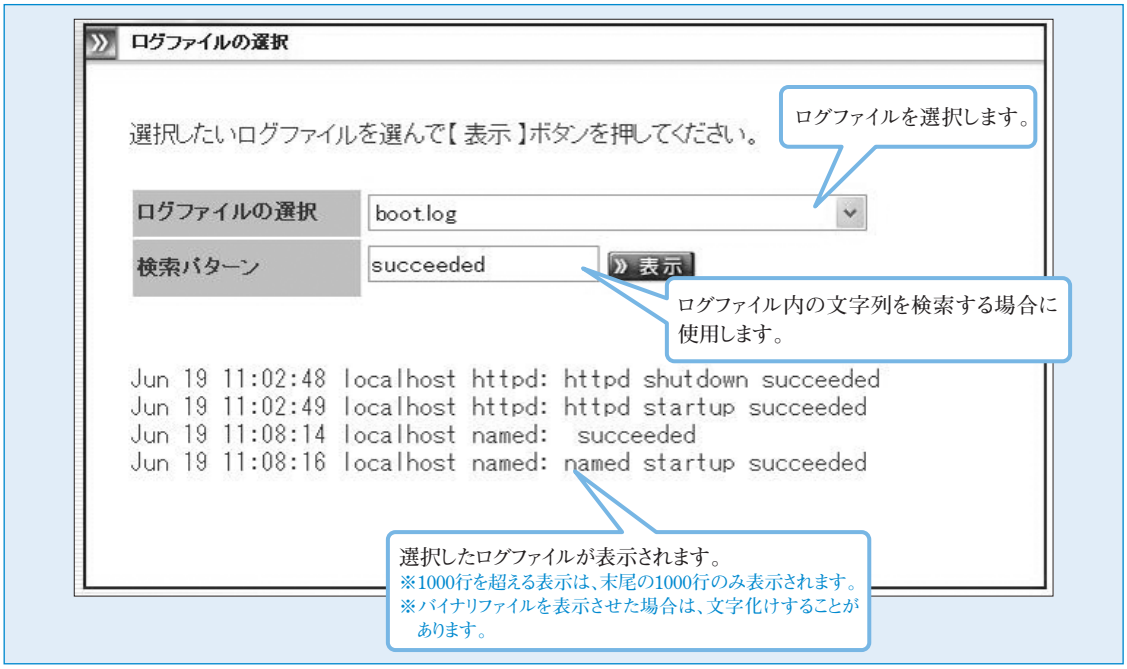
! 現在ログインしているすべてのユーザが強制的にログアウトされます。
また、すべてのサービスが再起動となりますので、ご注意ください。

8. システムログ

■ ログ表示 ……61

ログ表示

ログファイルを確認する場合に使用します。
Webサーバのエラーログ・アクセスログも確認できます。



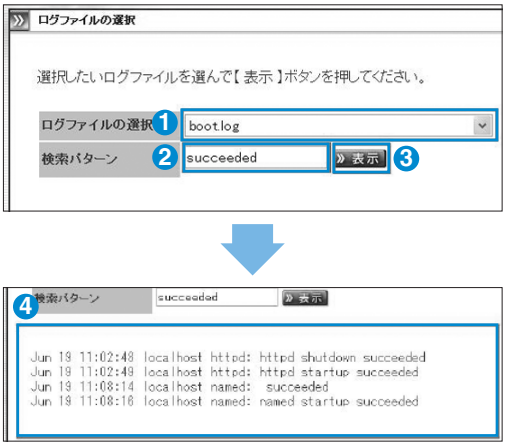
■ ログファイルを確認する場合

❶【ログファイルの選択】でログファイルを選択します。

❷ログファイル内を検索したい場合は、検索したい文字列を【検索パターン】に入力します。

❸「表示」ボタンをクリックします。

❹ログファイルの内容が表示されます。

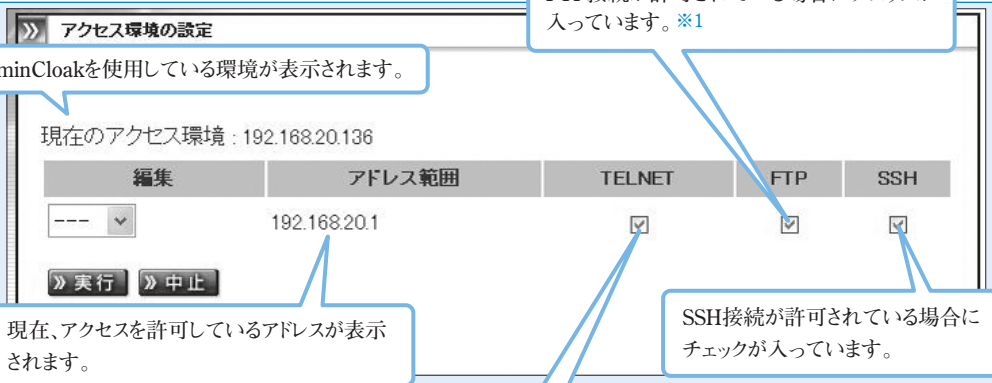


9. アクセス環境

■ アクセス環境 ……62
■ パケットフィルタ ……65
■ 管理ツール環境 ……67

アクセス環境

外部の攻撃からサーバを守るためのセキュリティ設定をおこなう場合に使用します。



AdminCloakを使用している環境が表示されます。

FTP接続が許可されている場合にチェックが入っています。※1

現在、アクセスを許可しているアドレスが表示されます。

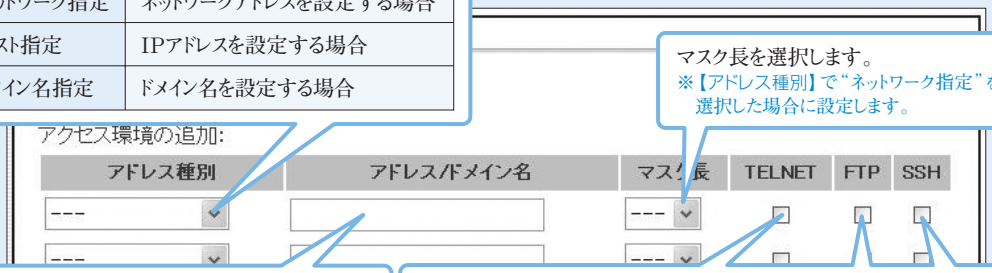
SSH接続が許可されている場合にチェックが入っています。

TELNET接続が許可されている場合にチェックが入っています。※2

アドレスの種類を指定します。

ネットワーク指定	ネットワークアドレスを設定する場合
ホスト指定	IPアドレスを設定する場合
ドメイン名指定	ドメイン名を設定する場合

マスク長を選択します。
※【アドレス種別】で“ネットワーク指定”を選択した場合に設定します。



アドレス又は、ドメイン名を入力します。

ネットワーク指定	ネットワークアドレスを入力します。
ホスト指定	IPアドレスを入力します。
ドメイン名指定	ドメイン名を入力します。

TELNET	TELNET接続を許可する場合にチェックを入れます。※2
FTP	FTP接続を許可する場合にチェックを入れます。※1
SSH	SSH接続を許可する場合にチェックを入れます。

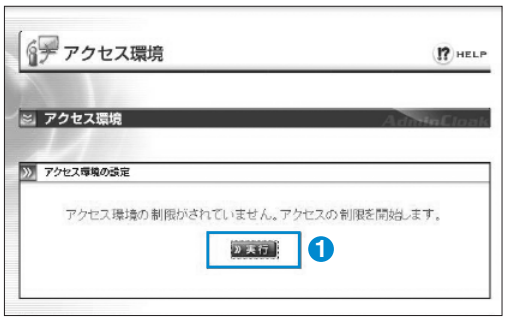
※1 FTPが表示されていない場合は、vsftpdの設定が“有効”になっていません。
P85の「2.vsftpdの有効化」をご覧のうえ、vsftpdを“有効”にしてください。
※2 TELNETが表示されていない場合は、telnetの設定が“有効”になっていません。
P84の「1.telnetの有効化」をご覧のうえ、telnetを“有効”にしてください。

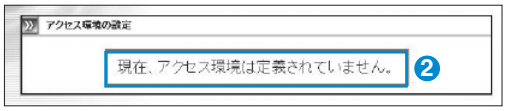
アクセス制限を開始します。
（アクセス環境を設定するには、アクセス制限を開始する必要があります。）

❶「**実行**」ボタンをクリックします。

❷右の図のように表示が切り換わります。

> ! 右の図の状態では、すべてのアクセスが拒否されています。次の手順によりアクセス環境を追加してください。





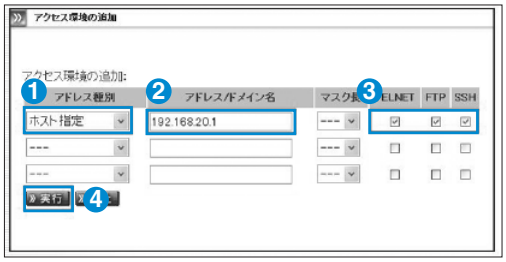
■ IPアドレスを指定してアクセス環境を追加する場合

❶【アドレス種別】欄で“ホスト指定”を選択します。

❷【アドレス/ドメイン名】欄でアクセス許可するIPアドレスを入力します。
（例）192.168.20.1

❸【TELNET】【FTP】【SSH】欄でアクセスを許可するサービスを選択します。

❹「**実行**」ボタンをクリックします。



■ ネットワークアドレスを指定してアクセス環境を追加する場合

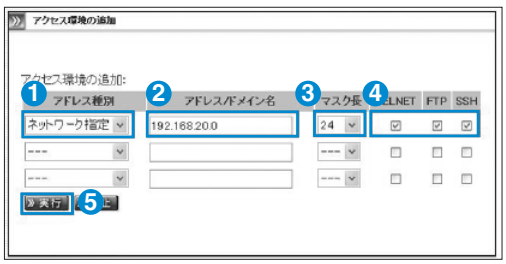
❶【アドレス種別】欄で“ネットワーク指定”を選択します。

❷【アドレス/ドメイン名】欄でアクセス許可するネットワークアドレスを入力します。
（例）192.168.20.0

❸【マスク長】欄でマスク長を選択します。

❹【TELNET】【FTP】【SSH】欄でアクセスを許可するサービスを選択します。

❺「**実行**」ボタンをクリックします。



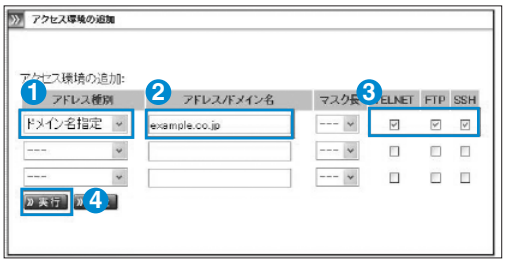
■ ドメイン名を指定してアクセス環境を追加する場合

❶【アドレス種別】欄で“ドメイン名指定”を選択します。

❷【アドレス/ドメイン名】欄でアクセスを許可するドメイン名を入力します。
（例）example.co.jp

❸【TELNET】【FTP】【SSH】欄でアクセスを許可するサービスを選択します。

❹「**実行**」ボタンをクリックします。

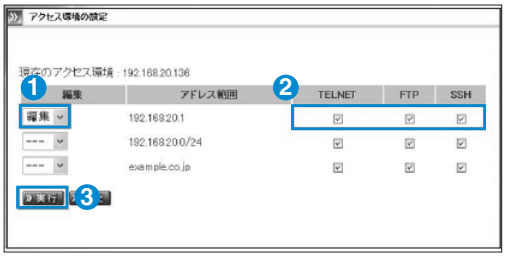


■ アクセス環境を編集する場合

❶編集するアドレス（または、ホスト名）を選び、【編集】を選択します。

❷設定内容を変更します。

❸「**実行**」ボタンをクリックします。



■ アクセス環境を削除する場合

❶削除するアドレス（または、ホスト名）を選び、【削除】を選択します。

❷「**実行**」ボタンをクリックします。

パケットフィルタ

TCP/IP層でのアクセスを制限する場合に使用します。
パケットフィルタを有効にした場合、設定したサービスのみ外部からのアクセスが可能になります。

パケットフィルタの有効・無効を切り換えます。

パケットフィルタ　◉ 有効　○ 無効　» 実行

パケットフィルタ有効時にサーバで受信を許可するサービスです。
現在のアクセス環境：192.168.20.136

編集	送信元アドレス範囲	サービス名	プロトコル・宛先ポート/タイプ
---	192.168.20.136	管理ツール	

削除する場合に選択します。

アクセス許可するアドレスが表示されます。

アクセス許可する通信プロトコルや、ポート/タイプが表示されます。

アクセス許可するサービスが表示されます。

ルールの適用　» 適用

パケットフィルタを追加した場合、設定を反映させるために使用します。

アドレスを入力します。

すべてのアドレス	入力は必要なし
ネットワーク指定	ネットワークアドレスを入力します。
ホスト指定	IPアドレスを入力します。

» パケットフィルタ(iptables)の追加

アドレス種別	アドレス入力	マスク長	サービス	プロトコル	宛先ポート/タイプ
---		---	---	-	
---		---	---	-	
		---	---		

アドレスの種類を選択します。

すべてのアドレス	すべてのアドレスを許可する場合
ネットワーク指定	ネットワークアドレスを設定する場合
ホスト指定	IPアドレスを設定する場合

通信プロトコルを選択します。

アクセス許可するサービスを選択します。

TCP、UDPの宛先ポート、ICMPのタイプを入力します。

マスク長を選択します。
※【アドレス種別】で"ネットワーク指定"を選択した場合に設定します。

■ パケットフィルタを【有効】にする場合

パケットフィルタを【有効】にする前に、必ずAdminCloakで使用している環境を追加してください。環境を追加しないで【有効】を設定すると、AdminCloakおよびサーバにアクセスできなくなります。
アクセスできなくなった場合は、P89の「6.パケットフィルタの無効化」をご覧のうえ、パケットフィルタを無効にしてください。

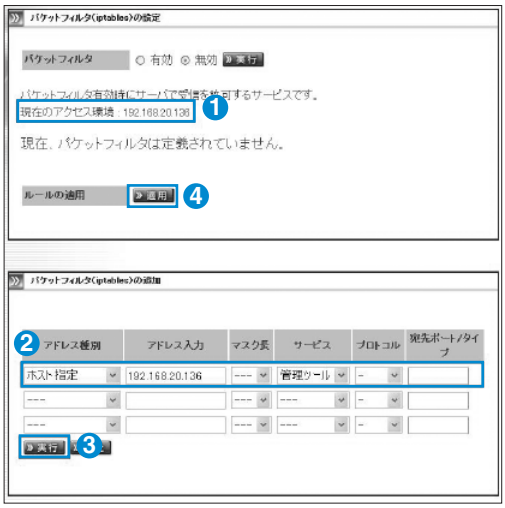
❶ 現在のアクセス環境を確認します。

❷ 下記のように設定します。

アドレス種別	“ホスト指定”を選択
アドレス入力	❶で確認したアドレスを入力します。
マスク長	―――
サービス	“管理ツール”を選択
プロトコル	―――
宛先ポート/タイプ	―――

❸ **「実行」**ボタンをクリックします。

❹ **「適用」**ボタンをクリックします。



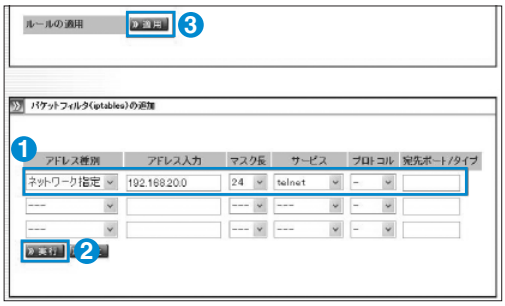
サーバに“telnet”や“ssh”でログインをおこなう場合は、同様の手順で、“telnet”、“ssh”を追加します。

■ パケットフィルタを追加する場合

❶ 各項目を入力します。

❷ **「実行」**ボタンをクリックします。

❸ **「適用」**ボタンをクリックします。



■ パケットフィルタを削除する場合

AdminCloakで使用している環境を削除すると、AdminCloakにアクセスできなくなりますのでご注意ください。アクセスできなくなった場合は、P89の「6.パケットフィルタの無効化」をご覧のうえ、パケットフィルタを“無効”にしてください。

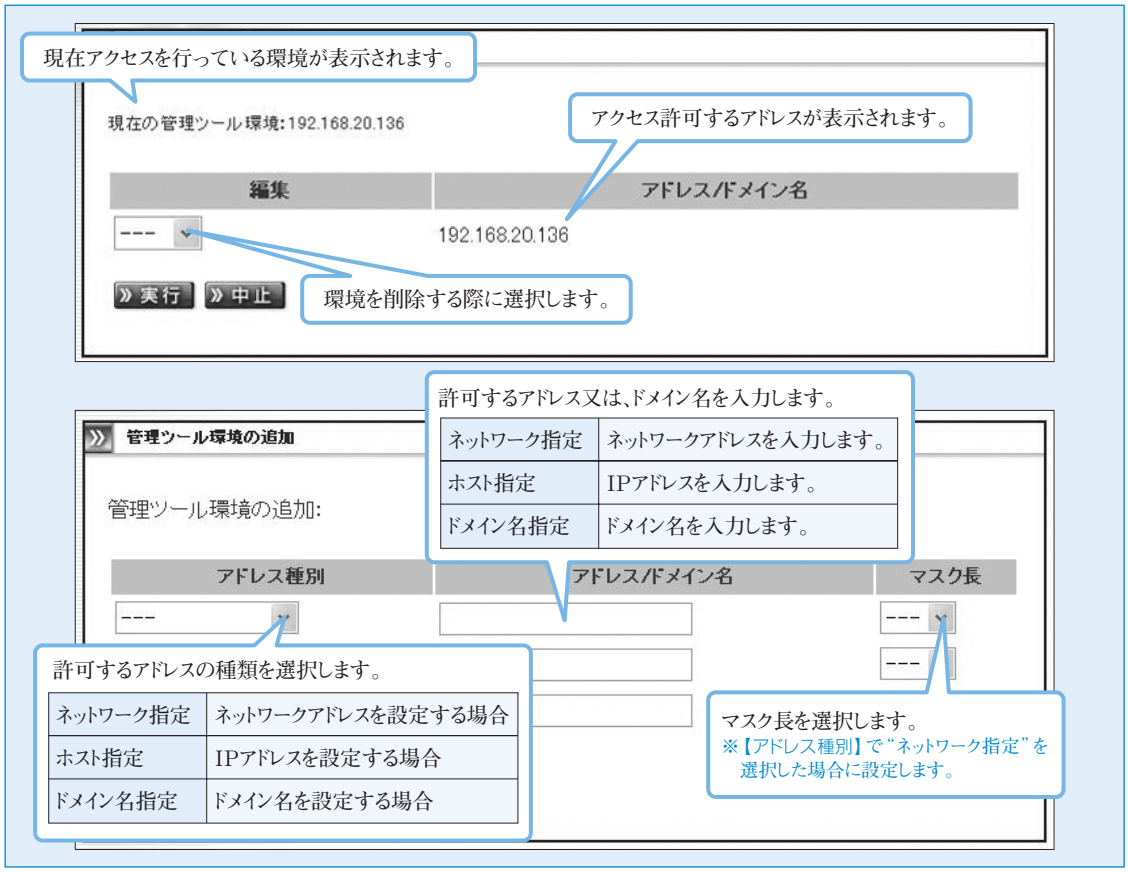
❶ 削除するアドレスを選び、【削除】を選択します。

❷ **「実行」**ボタンをクリックします。

❸ **「適用」**ボタンをクリックします。

管理ツール環境

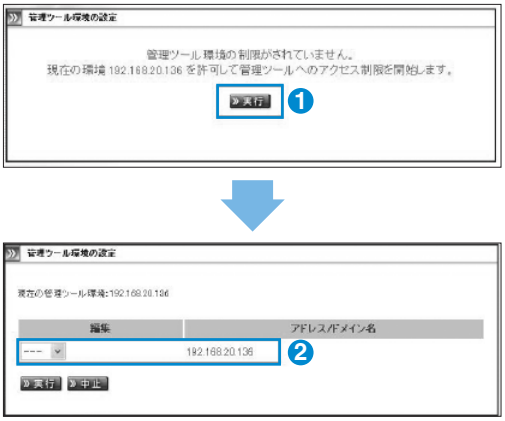
AdminCloakへのアクセスを制限したい場合に使用します。
管理ツール環境を設定することで、予め設定した環境からのみAdminCloak管理画面にアクセスを許可することができます。



アクセス制限を開始します。

❶「**実行**」ボタンをクリックします。

❷右の図のように表示が切り換わります。



! 現在、サーバが使用している環境が、自動的に追加されます。

! 他の環境からAdminCloakを使用したい場合は管理ツール環境を追加する必要があります。

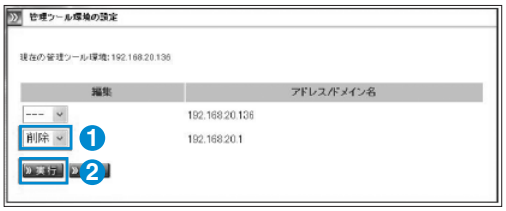
■ 管理ツール環境を追加する場合

❶ 各項目を入力します。

❷「**実行**」ボタンをクリックします。

■ 管理ツール環境を削除する場合

管理ツールで、現在アクセスをおこなっている環境を削除すると、AdminCloakにアクセスできなくなります。アクセスできなくなった場合は、P90の「7.AdminCloakインストーラの機能説明」の「AdminCloakにアクセスできない場合の対処」をご覧ください。



❶ 削除するアドレスを選び、【削除】を選択します。

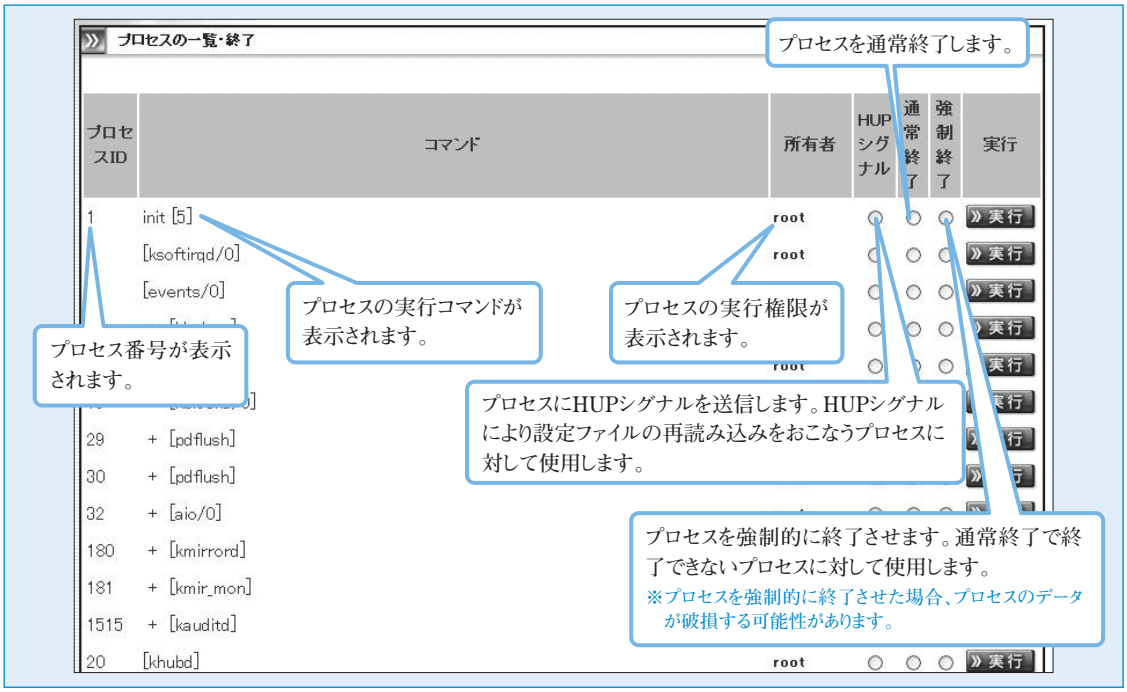
❷「**実行**」ボタンをクリックします。

10. プロセス管理

■ プロセス実行・終了 ……69

プロセス実行・終了

サーバで起動しているプロセスを確認する場合に使用します。
また、指定したプロセスを終了させることもできます。



■ プロセスを終了する場合

❶ プロセスを選び【HUPシグナル】／【通常終了】／【強制終了】のいずれかにチェックを入れます。

! プロセスの終了は、"root" 権限でおこなわれます。プロセス "httpd_sak" を終了すると、このAdminCloakへの接続ができなくなりますので、ご注意ください。

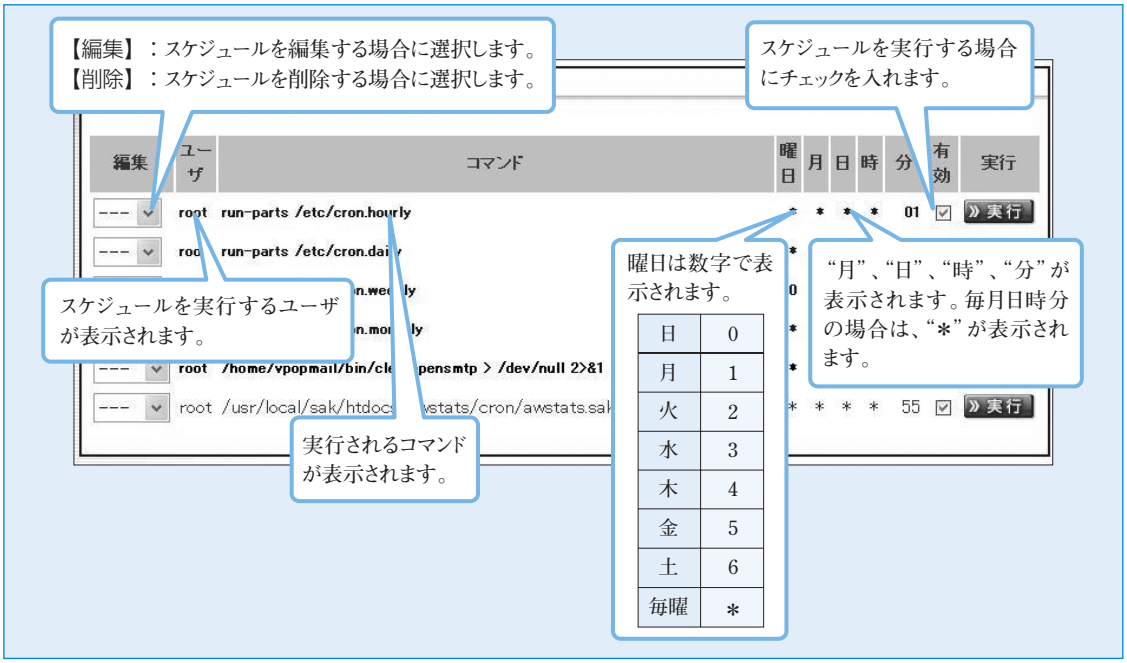
❷ 「**実行**」ボタンをクリックします。

11. スケジューリング

■ cronジョブ表示・削除……70
■ cronジョブ追加 ……71

cronジョブ表示・削除

cronにより定期的に実行されるジョブ（スケジュール）の確認・変更時に使用します。



■ スケジュールを編集する場合

❶ 編集するスケジュールを選び、【編集】を選択します。

❷【有効】欄の設定を変更します。

❸「実行」ボタンをクリックします。

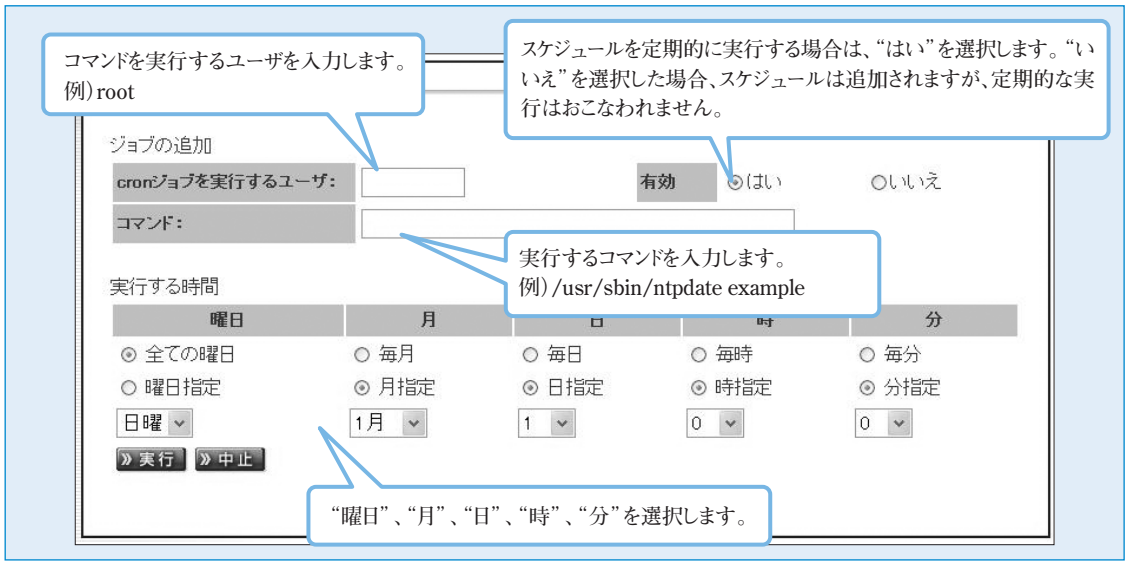
■ スケジュールを削除する場合

❶ 削除するスケジュールを選び、【削除】を選択します。

❷ 「**実行**」ボタンをクリックします。

cronジョブ追加

スケジュールを追加する場合に使用します。
定期的にコマンドを実行させたいときにも利用します。

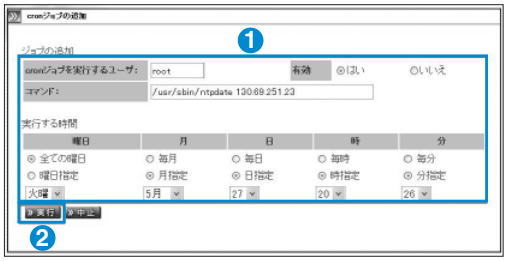


■ スケジューリングを追加する場合

❶ 各設定項目を入力します。

❷ 「**実行**」ボタンをクリックします。

追加したスケジュールは、【スケジューリング】⇒【cronジョブ表示・削除】で確認できます。



12. アクセス統計

■ アクセス統計 ……72

アクセス統計

ホームページのアクセス統計を確認する場合に使用します。

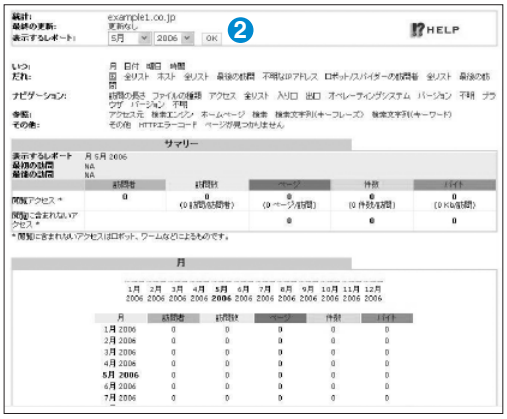
■ アクセス統計を確認する場合

❶ドメインを選択し、**「実行」**ボタンをクリックします。

> 【バーチャルドメイン】⇒【ドメイン一覧・削除】(P48)にて、Webサーバが“有効”に設定されているドメインのみ表示されます。

❷アクセス統計が表示されます。

> 【Webサーバ】⇒【基本設定】(P39)にて、カスタムログのフォーマットが“combined”を選択しているドメインのみ、アクセス統計が機能します。



● サマリー（要約）

当月の統計情報の概要です。対象サイトへの訪問者数、訪問回数が確認できます。
それぞれの用語の意味は以下のとおりです。

■訪問者
訪問者数は、当月中の対象サイトに最低1回訪れたホスト数です。
同一のホストが当月中に複数回訪問した場合も1回しかカウントされません。

■訪問数
全ての訪問者によって記録された延べ訪問回数です。
同一のホストが当月中に複数回訪問した場合も回数分カウントされます。
なお「訪問/訪問者」は、当月中の同一ホストからの平均訪問回数を表します。
この値が大きいほどリピーターが多いことになります。

■ページ
訪問者が対象サイトで閲覧したページ数です。
ページ数とは、webサーバへのリクエストのうち画面を生成する要求（HTMLやCGIなど）のみをカウントしたものです。
なお「ページ/訪問」は、1訪問中の平均ページ数を表します。

■件数
訪問者が対象サイトで要求したリクエスト数です。
リクエストとは、HTMLやCGIなどのページに加えて、ページのリクエストに付随するイメージファイルの取得やjsファイル、cssファイルのリクエストもカウントしたものです。なお「件数/訪問」は、1訪問中の平均リクエスト数を表します。

■バイト
訪問者の対象サイトでダウンロードしたファイルのバイト数です。
なお「kb/訪問」は、1訪問中のダウンロードの平均バイト数を表します。

● いつ

当月のアクセス数を月・日付・曜日・時間別に統計情報として表示します。
この情報によって、アクセスの多い時間帯や曜日などの傾向をつかむことができます。

■月
月毎のアクセス数を表示します。

■日付
当月中の1日毎のアクセス数を表示します。

■曜日
当月中の曜日毎のアクセス数を表示します。

■時間
当月中の時間帯毎のアクセス数を表示します。

●だれ

対象サーバにどこからアクセスしたか統計情報として表示します。

■国
対象サイトへのアクセス元を国別に表示します。

■ホスト
対象サイトへのアクセス元をホスト別に表示します。
なお、ホスト名がDNSにより名前解決できなかった場合はIPアドレスで表示されます。

■ロボット/スパイダーの訪問者
ロボット/スパイダーからのアクセス数を表示します。
ロボット/スパイダーは、検索エンジンが情報を収集するためのアクセスです。
ロボット/スパイダーからのアクセスは訪問者の閲覧ではないため、他の解析対象には含まれません。

●ナビゲーション

対象サイトへのアクセスをさまざまな角度から解析した統計情報を表示します。

■訪問の長さ
訪問者の滞在時間別に集計した結果を表示します。

■ファイルの種類
訪問者が閲覧したファイル別の集計した結果を表示します。

■URLページ
対象サイト内のアクセス数の多いページを集計した結果を表示します。

■オペレーティングシステム
訪問者のクライアントOSを集計した結果を表示します。

■ブラウザ
訪問者のブラウザとバージョンを集計した結果を表示します。

●参照

対象サイトへのアクセスに関する解析結果を表示します。

■このサイトへのアクセス元
対象サイトへのアクセス経路の集計結果を表示します。

■検索文字列（キーフレーズ）
検索エンジンを使用してアクセスしてきた場合、どのような検索文字列を入力したかを集計した結果を表示します。
検索エンジンに入力した文字列（キーフレーズ）単位に集計します。

■検索文字列（キーワード）
検索エンジンを使用してアクセスしてきた場合、どのような検索文字列を入力したかを集計した結果を表示します。
検索エンジンに入力した文字列を単語（キーワード）単位に分類して集計します。

● HTTPエラーコード

対象サイトが発行したエラーコードを集計した情報を表示します。
たとえば、エラーコード「404」が表示された場合は、対象サイト内にリンク切れの存在する可能性があります。

第5章

よくある質問と回答

1．よくある質問と回答 76

1. よくある質問と回答

■AdminCloak管理画面

【質問】	AdminCloak管理画面にアクセスできません。
【回答1】	SELinuxが“有効”になっている場合は、AdminCloak管理画面にアクセスできないことがあります。 P93の「9.SELinuxの無効化」をご確認のうえ、SELinuxを“無効”にしてください。
【回答2】	管理ツール環境によりアクセスが制限されている場合は、AdminCloak管理画面にアクセスできないことがあります。 P90の「AdminCloakにアクセスできない場合の対処」をご確認のうえ、管理ツール環境を“無効”にしてください。
【回答3】	パケットフィルタによりアクセスが制限されている場合は、AdminCloak管理画面にアクセスできないことがあります。P89の「6.パケットフィルタの無効化」をご確認のうえ、パケットフィルタを“無効”にしてください。
【回答4】	管理プログラム(httpd_sakctl)が起動していない場合は、AdminCloak管理画面にアクセスできません。 “service httpd_sakctl start”を実行して、管理プログラムを起動してください。
【回答5】	php、httpdを再インストールした場合は、管理プログラムが起動しないことがあります。 “cd /usr/local/src/adcl_installer-【バージョン】”を実行します。 次に“./install.sh master_httpd”を実行してください。

【質問】	AdminCloak管理画面のログイン名・ログインパスワードを忘れました。
【回答】	P90の「ログイン名、ログインパスワードの変更方法」をご確認のうえ、ログイン名とログインパスワードを再設定してください。

【質問】	AdminCloak管理画面にログインすると「ユーザの認証に失敗しました。」と表示されてログインできません。
【回答】	サーバの時刻が正確でない場合は、整合性が取れないためAdminCloakにログインできないことがあります。 “date”コマンドを使用し、時刻が正しいことをご確認してください。サーバの時刻が違う場合は、“/usr/sbin/ntpdate jp.pool.ntp.org”を実行し、時刻を合わせてください。

■ユーザ管理

【質問】	ユーザを削除できません。(バーチャルドメインを削除できません)
【回答】	該当ユーザでシステムにログインしている場合またはFTP接続している場合、削除できない場合があります。

【質問】	ユーザ情報は変更できますか?
【回答】	ログイン名(ユーザ名)は変更できません。 パスワード・システムログイン・メール・FTPは、【ユーザ管理】⇒【ユーザ一覧・削除】(P32)から変更できます。

【質問】 ユーザ数に上限はありますか?

【回答】 製品タイプにより、使用できるユーザ数が異なります。
【システム管理】⇒【システム設定】(P56)で、製品タイプが確認できます。

フル機能版	500ユーザ
試用版	100ユーザ

■Webサーバ

【質問】 ホームページのアップロードディレクトリを教えてください。

【回答】 【Webサーバ】⇒【基本設定】(P40)で、"ドキュメントルート"に指定されているディレクトリにホームページのコンテンツをアップロードしてください。

【質問】 ホームページが表示されません。

【回答】 SELinixが"有効"になっている場合、ホームページが表示されないことがあります。
P93の「9.SELinuxの無効化」をご確認のうえ、SELinuxを"無効"にしてください。

【質問】 SSI、CGIは使用できますか?

【回答】 SSI、CGIを使用する場合は、【Webサーバ】⇒【基本設定】(P40)で、"SSI許可"、"CGI許可"のチェックボックスにチェックを入れてから**「実行」**ボタンをクリックしてください。

【質問】 Webサーバ(基本設定)、DNSサーバ(基本設定)の"ドメインの選択"でドメインが表示されません。

【回答】 【バーチャルドメイン】⇒【ドメイン一覧・削除】(P48)で、ドメインの各サービス(Webサーバ、DNS)をご確認ください。"無効"が選択されている場合、"ドメイン選択"にドメインは表示されません。

【質問】 Webサーバの設定がサーバに反映されません。

【回答】 Webサーバの設定を変更した場合は、【システム管理】⇒【サービス起動・停止】(P59)で、Webサービスを再起動する必要があります。

■メールサーバ

【質問】 メールの送受信ができません。

【回答】 メールソフトの設定をご確認ください。
例：ドメイン名(example.co.jp)、ユーザ名(yamada)の場合のメール設定は、以下のとおりです。

ユーザ名	yamada@example.co.jp
パスワード	ユーザのパスワード
POPサーバ	mail.example.co.jp
SMTPサーバ	mail.example.co.jp

【質問】 メールのパスワードを忘れました。

【回答】 【ユーザ管理】⇒【ユーザ一覧・削除】(P32)で、パスワードの再設定ができます。
※“システムログイン”と“FTP”のパスワードも、同時に再設定されます。

【質問】 メールが受信できません。

【回答】 【メールサーバ】⇒【基本設定】(P42)にて、受信メールサイズ上限を確認してください。
送信したメールが受信メールサイズ上限を超えている場合、メールが受信できません。
メールサーバの受信メールサイズ上限を変更してください。

【質問】 メールを他のメールアドレスへ転送することはできますか?

【回答】 【ユーザ管理】⇒【メール転送】(P37)で、メールの転送設定ができます。

【質問】 【ユーザ管理】⇒【メール転送】で、“転送メールの保管”欄のチェックボックスが表示されません。

【回答】 【ユーザ管理】⇒【ユーザ一覧・削除】(P32)にて、該当ユーザのメール欄のチェックボックスにチェックが入っていない場合、“転送メールの保管”欄のチェックボックスが表示されません。

【質問】 【ユーザ管理】⇒【ユーザ追加】・【ユーザ一覧・削除】で、“メール”欄のチェックボックスが表示されません。

【回答】 該当ドメインのメールサービスが“無効”になっている場合、“メール”欄のチェックボックスが表示されません。
【バーチャルドメイン】⇒【ドメイン一覧・削除】(P48)で、メールを“有効”にしてください。

■バーチャルドメイン

【質問】 バーチャルドメイン数に上限はありますか?

【回答】 製品タイプにより、使用できるドメイン数が異なります。
【システム管理】⇒【システム設定】(P56)で、“製品タイプ”と“ドメイン数”が確認できます。

フル機能版	100ドメイン
試用版	10ドメイン

【質問】 バーチャルドメイン名は変更できますか?

【回答】 バーチャルドメイン名は変更できません。
ログイン名・ログインパスワード・管理用のコメントは、【バーチャルドメイン】⇒【ドメイン情報】(P50)で、変更できます。

■アクセス管理

【質問】 【アクセス環境】⇒【パケットフィルタ】の設定を有効にすると、AdminCloakにアクセスできなくなりました。

【回答】 現在アクセスしている環境がパケットフィルタに設定されていない場合、AdminCloakにアクセスすることはできません。
先ず、P89の「6.パケットフィルタの無効化」をご確認のうえ、パケットフィルタを“無効”にしてください。
次に、P65の「パケットフィルタ」をご確認のうえ、“現在のアクセス環境”を追加してください。

【質問】 【アクセス環境】⇒【アクセス環境】で、“FTP”欄が表示されません。

【回答】 FTPが“無効”になっている場合、“FTP”欄は表示されません。
P85の「2.vsftpdの有効化」をご確認のうえ、vsftpdを“有効”にしてください。

【質問】 【アクセス環境】⇒【アクセス環境】で、“telnet”欄が表示されません。

【回答】 telnetが“無効”になっている場合、“telnet”欄は表示されません。
P84の「1.telnetの有効化」をご確認のうえ、telnetを“有効”にしてください。

■スケジューリング

【質問】 設定したスケジュールが実行されません。

【回答】 【スケジューリング】⇒【cronジョブ表示・削除】(P70)で、スケジュールの“有効”欄のチェックボックスにチェックが入っていることをご確認ください。

■システムログ

【質問】 Webサーバで設定を変更した“エラーログ”、“カスタムログ”のログファイル名が【システムログ】⇒【ログ表示】の“ログファイルの選択”に表示されません。

【回答】 カスタムログ、エラーログの設定を“/var/log/httpd”以外の場所に指定している場合、ログ表示からはご確認できません。

■アクセス統計

【質問】 アクセス統計が更新されません。

【回答】 【Webサーバ】⇒【基本設定】(P39)で、カスタムログのフォーマットをご確認ください。
“combined”以外を選択している場合、アクセス統計に使用するデータを取得することができません。
アクセス統計機能を有効にするには、カスタムログのフォーマットを“combined”にしてください。

【質問】 【アクセス統計】メニューでドメインが表示されません。

【回答】 Webサーバが“無効”の場合は、ドメインは表示されません。
【バーチャルドメイン】⇒【ドメイン一覧・削除】(P48)にてWebサーバの設定をご確認のうえ、“有効”にしてください。

■システム管理

【質問】 【システム管理】⇒【サービス起動・停止】で、DNSの状態が“不明”になっています。

【回答】 SELinuxが“有効”になっている場合、DNSの状態が“不明”と表示されます。
P93の「9.SELinuxの無効化」をご確認のうえ、SELinuxを“無効”にしてください。

■ライセンス

【質問】 AdminCloakのメニューの色がグレーに変わり、メニューが選択できなくなりました。

【回答】 ライセンスの有効期限が切れています。
P16の「7.ライセンスの登録と更新」をご確認のうえ、ライセンスを更新してください。

【質問】 ライセンスが切れた場合、今までサーバに設定した機能は無効になるのでしょうか?

【回答】 ライセンスが切れてAdminCloakがご利用できなくなっても、既にサーバに設定した機能は引き続きご利用いただけます。P16の「7.ライセンスの登録と更新」をご確認のうえ、ライセンスを更新してください。

■FTP

【質問】	ファイル転送ソフト（FFFTP）の設定方法を教えてください。
【回答】	P91の「8.ファイル転送ソフト（FFFTP）の設定方法」をご覧ください。

【質問】	【ユーザ管理】⇒【ユーザ追加】・【ユーザ一覧・削除】で、“FTP”欄が表示されません。
【回答】	FTPの設定が“無効”になっています。 P85の「2.vsftpdの有効化」をご確認のうえ、vsftpdを“有効”にしてください。

【質問】	FTPで接続できません。
【回答1】	【ユーザ管理】⇒【ユーザ一覧・削除】（P32）で、“FTP”欄が表示されていることをご確認ください。 “FTP”欄が表示されていない場合、vsftpdが“無効”になっています。 P85の「2.vsftpdの有効化」をご確認のうえ、vsftpdを“有効”にしてください。 【ユーザ管理】⇒【ユーザ一覧・削除】（P32）より、該当ユーザのFTP”欄のチェックボックスにチェックを入れます。
【回答2】	【ユーザ管理】⇒【ユーザ一覧・削除】（P32）で、該当ユーザの“FTP”欄のチェックボックスにチェックが入っていることをご確認してください。“FTP”欄のチェックボックスにチェックが入っていない場合は、チェックを入れてください。

■telnet

【質問】	telnetで接続できません。
【回答】	telnetの設定が“無効”になっています。 P84の「1.telnetの有効化」をご確認のうえ、telnetを“有効”にしてください。

第6章

その他

6

1．telnetの有効化 84

2．vsftpdの有効化 85

3．vsftpdの無効化 87

4．gssftpの有効化 88

5．gssftpの無効化 89

6．パケットフィルタの無効化 89

7．AdminCloakインストーラの機能説明 90

8．ファイル転送ソフト(FFFTP)の設定方法 91

9．SELinuxの無効化 93

1. telnetの有効化

telnetを有効にする手順を説明します。
【アクセス環境】⇒【アクセス環境】メニューの、telnet欄が表示されていない場合やtelnetで接続できない場合は、telnet を有効に設定する必要があります。

1 telnetの状態を確認します。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig --list krb5-telnet

```
[root@localhost root]# chkconfig --list krb5-telnet
krb5-telnet      オフ
```

❷右のように“オフ”が表示されている場合は、telnetの設定が“無効”になっています。

2 telnetの設定を有効にします。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig krb5-telnet on

```
[root@localhost root]# chkconfig krb5-telnet on
```

3 再度、telnetの状態を確認します。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig --list krb5-telnet

```
[root@localhost root]# chkconfig --list krb5-telnet
krb5-telnet      オン
```

❷右の図のように“オン”が表示されていることを確認します。

4 ファイルを編集します。

❶ファイルを開きます。
vi /etc/sak.conf

```
[root@localhost root]# vi /etc/sak.conf
```

❷次のように“#”を削除します。
ACCESS_KRB5_TELNET
↓
ACCESS_KRB5_TELNET

```
# ACCESS_PROFTPD: YES
# ACCESS_VSFTPD: YES
# ACCESS_GSSFTP: YES

# ACCESS_DARPA_TELNET: YES
ACCESS_KRB5_TELNET: YES

# HTTPD_CONF: /etc/httpd/conf/httpd.conf
# HTTPD_DOMAIN: /etc/httpd/sak/
```

2. vsftpdの有効化

vsftpdを有効にする手順を説明します。
【ユーザ管理】⇒【ユーザ追加】・【ユーザ一覧・削除】メニューや、【アクセス環境】⇒【アクセス環境】メニューの、FTP欄が表示されていない場合は、vsftpdの設定を有効にする必要があります。

! vsftpdを有効にする前に、必ずgssftpが無効になっていることを確認してください。
⇒P89の「5.gssftpの無効化」をご覧いただいて、gssftpを無効にしてください。

1 インストールの確認をします。

❶次のコマンドを実行します。
rpm -q vsftpd

```
[root@localhost root]# rpm -q vsftpd ❶
パッケージ vsftpd はインストールされていません ❷
```

❷右のように表示された場合は、vsftpdのインストールが必要です。

❸次のコマンドを実行し、vsftpdをインストールします。

■CentOSの場合
yum install vsftpd

```
[root@localhost root]# yum install vsftpd
❸
```

■Red Hat Enterprise Linuxの場合
up2date install vsftpd

```
[root@localhost root]# up2date install vsftpd ❸
Fetching Obsoletes list for channel: rhel-i386-es-3...
########################################
```

2 vsftpdの状態を確認します。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig --list vsftpd

```
[root@localhost root ❶ chkconfig --list vsftpd
vsftpd  0:オフ  1:オフ  2:オフ  3:オフ  4:オフ  5:オフ ❷ オフ
```

❷右のように“オフ”が表示されている場合は、vsftpdの設定が無効になっています。

3 vsftpdを有効にします。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig vsftpd on

```
[root@localhost root❶ chkconfig vsftpd on
```

4 vsftpd状態が“オン”であることを確認します。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig --list vsftpd

❷右の図のように“オン”が表示されていることを確認します。

```
[root@localhost root]# chkconfig --list vsftpd
vsftpd  0:オフ  1:オフ  2:オン  3:オン  4:オン  5:オン  6:オフ
```

5 ファイルを編集します。

❶ファイルを開きます。
vi /etc/sak.conf

```
[root@localhost root]# vi /etc/sak.conf
```

❷次のように“#”を削除します。
ACCESS_VSFTPD: YES
↓
ACCESS_VSFTPD: YES

```
# ACCESS_PROFTPD: YES
  ACCESS_VSFTPD: YES
# ACCESS_GSSFTP: YES
```

3. vsftpdの無効化

vsftpdを無効にする手順をご紹介します。
gssftpを使用する場合は、vsftpdを無効にします。

1 vsftpdの状態を確認します。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig --list vsftpd

```
[root@localhost root]# chkconfig --list vsftpd
vsftpd  0:オフ  1:オフ  2:オン  3:オン  4:オン  5:オン  6:オフ
```

❷右のように“オン”が表示されている場合は、vsftpdの設定が有効になっています。

2 vsftpdを無効にします。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig vsftpd off

```
[root@localhost root]# chkconfig vsftpd off
```

3 再度、vsftpdの状態を確認します。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig --list vsftpd

```
[root@localhost root]# chkconfig --list vsftpd
vsftpd  0:オフ  1:オフ  2:オフ  3:オフ  4:オフ  5:オフ  6:オフ
```

❷右のように“オフ”が表示されていることを確認します。

4 vsftpdを停止します。

❶次のコマンドを実行します。
service vsftpd stop

```
[root@localhost root]# service vsftpd stop
vsftpdを停止中:                                    [  OK  ]
```

5 ファイルを編集します。

❶ファイルを開きます。
vi /etc/sak.conf

```
[root@localhost root]# vi /etc/sak.conf
```

❷次のように“#”を追加します。
ACCESS_VSFTPD: YES
↓
ACCESS_VSFTPD: YES

```
# ACCESS_PROFTPD: YES
# ACCESS_VSFTPD: YES
# ACCESS_GSSFTP: YES
```

4. gssftpの有効化

gssftpを有効にする手順を説明します。

gssftpを有効にする前に、必ずvsftpdが無効になっていることを確認してください。
⇒P87の「3.vsftpdの無効化」をご覧いただいて、vsftpdを無効にしてください。

1 gssftpの状態を確認します。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig --list gssftp

```
[root@localhost root]# chkconfig --list gssftp
gssftp          オフ
```

❷右のように“オフ”が表示されている場合は、gssftpの設定が無効になっています。

2 gssftpを有効にします。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig gssftp on

```
[root@localhost root]# chkconfig gssftp on
```

3 再度、gssftpの状態を確認します。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig --list gssftp

```
[root@localhost root]# chkconfig --list gssftp
gssftp          オン
```

❷右のように“オン”が表示されていることを確認します。

4 ファイルを確認します。

❶ファイルを開きます。
cat /etc/xinetd.d/gssftp

❷右のように設定されていることを確認します。設定が異なる場合は、右を参考にして設定を変更してください。

```
[root@localhost root]# cat /etc/xinetd.d/gssftp
# default: off
# description: The kerberized FTP server accepts FTP connections ¥
#              that can be authenticated with Kerberos 5.
service ftp
{
        disable = no
        flags           = REUSE
        socket_type     = stream
        wait            = no
        user            = root
        server          = /usr/kerberos/sbin/ftpd
        server_args     = -l
        log_on_failure  += USERID
```

5 再起動します。

❶次のコマンドを実行します。
/etc/rc.d/init.d/xinetd restart

```
[root@localhost root]# /etc/rc.d/init.d/xinetd restart
xinetdを停止中:                                            [  OK  ]
xinetdを起動中:                                            [  OK  ]
```

6 ファイルを編集します。

❶ファイルを開きます。
vi /etc/sak.conf

```
[root@localhost root]# vi /etc/sak.conf
```

❷次のように“#”を削除します。
ACCESS_GSSFTP: YES
↓
ACCESS_GSSFTP: YES

```
# ACCESS_PROFTPD: YES
# ACCESS_VSFTPD: YES
ACCESS_GSSFTP: YES
```

5. gssftpの無効化

gssftpを無効にする手順を説明します。
vsftpdを使用する場合は、gssftpを無効にします。

1 gssftpの状態を確認します。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig --list gssftp

```
[root@localhost root]# chkconfig --list gssftp
gssftp          オン
```

❷右のように“オン”が表示されている場合は、gssftpの設定が有効になっています。

2 gssftpを無効にします。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig gssftp off

```
[root@localhost root]# chkconfig gssftp off
```

3 再度、gssftpの状態を確認します。

❶次のコマンドを実行します。
chkconfig --list gssftp

```
[root@localhost root]# chkconfig --list gssftp
gssftp          オフ
```

❷右のように“オフ”が表示されていることを確認します。

6. パケットフィルタの無効化

パケットフィルタを無効にする手順を説明します。
パケットフィルタを有効に設定し、AdminCloakにアクセスできなくなった場合は、パケットフィルタを無効にします。

! セキュリティ機能が無効になりますので、通常は、使用しないでください。

1 パケットフィルタを無効にします。

❶次のコマンドを実行します。
/etc/rc.d/rc.firewall off

```
[root@localhost root]# /etc/rc.d/rc.firewall off
```

7. AdminCloakインストーラの機能説明

AdminCloakのインストーラには、ログイン名やログインパスワードの変更、AdminCloakにアクセスできない場合に便利な機能が搭載されています。

■ログイン名、ログインパスワードの変更方法

AdminCloakへログインする際に使用するログイン名、ログインパスワードの変更をおこないます。

1 ディレクトリを移動します。

```
root@localhost src]# cd /usr/local/src/adcl_installer-1.5.1.1-13
root@localhost adcl_installer-1.5.1.1-13]#
```
❶

❶次のコマンドを実行します。

cd /usr/local/src/adcl_installer-1.5.1.1-13 ※

※1.5.1.1-13の表記は、ご使用されているソフトのバージョンによって異なりますので、ご注意ください。

2 ログイン名とログインパスワードを変更します。

❶次のコマンドを実行します。

./install.sh reset_admin【新ログイン名】【新ログインパスワード】

(例)./install.sh reset_admin admin cloak を実行した場合、下記のように、ログイン名とログインパスワードが設定されます。

ログイン名	admin
ログインパスワード	cloak

■AdminCloakにアクセスできない場合の対処

【アクセス環境】⇒【管理ツール環境】メニューで、アクセス制限を有効に設定し、AdminCloakにアクセスできなくなった場合の対処法です。

1 ディレクトリを移動します。

```
root@localhost src]# cd /usr/local/src/adcl_installer-1.5.1.1-13
root@localhost adcl_installer-1.5.1.1-13]#
```
❶

❶次のコマンドを実行します。

cd /usr/local/src/adcl_installer-1.5.1.1-13 ※

※1.5.1.1-13の表記は、ご使用されているソフトのバージョンによって異なりますので、ご注意ください。

2 管理ツール環境を無効にします。

```
root@localhost adcl_installer-1.5.1.1-13]# ./install.sh reset_htaccess
```
❶

❶次のコマンドを実行します。

./install.sh reset_htaccess

3 これで管理ツール環境が無効になりました。

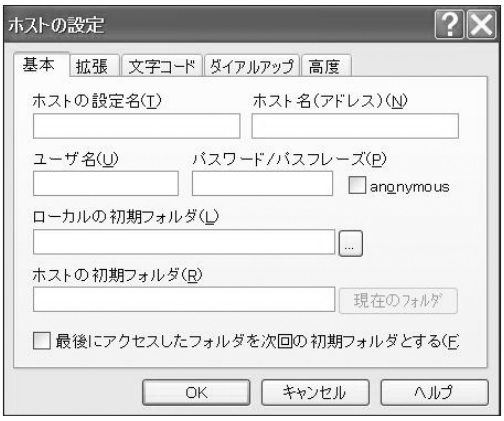
※アクセス制限が無効になっているため、P67の「管理ツール環境」をご覧のうえ、再度、管理ツール環境を設定してください。

8. ファイル転送ソフト(FFFTP)の設定方法

1 FFFTPソフトの起動

❶ FFFTPを起動すると、**「ホスト一覧」**ウインドウが開きます。開いていない場合は、**「接続(F)」ー「ホストの設定(H)」**を開きます。

❷ **「新規ホスト(N)」**をボタンをクリックすると、**「ホストの設定」**ウインドウが開きます。



2 FFFTPソフトの設定

❶ FTPの基本設定をおこないます。**「基本」**タブを選択し、各項目を入力します。

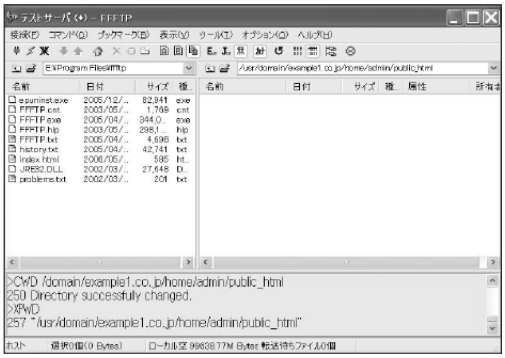
ホストの設定名	ホスト名を入力します。 (例)テストサーバ
ホスト名(アドレス)	サーバのIPアドレスを入力します。 (例)192.168.20.1
ユーザ名	ユーザ名を設定します。 (例)admin@example1.co.jp
パスワード	ユーザパスワードを入力します。
ホストの初期フォルダ	【Webサーバ】⇒【基本設定】(P40)にて設定したドキュメントルートを入力します。 (例)/domain/example1.co.jp/home/admin/public_html

3 コンテンツの転送

❶ ホスト一覧より、先ほど設定した**「ホストの設定名」**を選択して、**「接続（S）」**ボタンをクリックします。

❷ サーバに接続できた場合は、「ファイル一覧の取得は正常に終了しました。」とメッセージが表示されます。

左側のウインドウに接続元が表示され、右側のウインドウに接続先のサーバが表示されます。



❸ 左側のウインドウから、コンテンツ（index.htmlなど）を選択し、右クリックで、**「アップロード」**を選択します。選択したファイルが左側のウインドウのサーバへ転送されます。

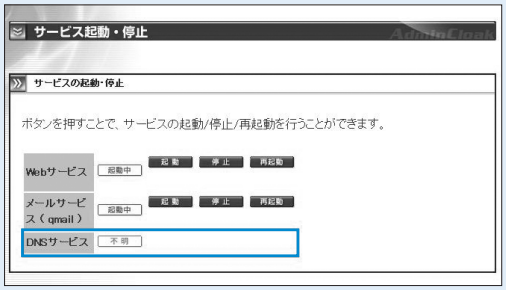
❹ ファイルの転送を終えたら、**「接続（F）」**の**「切断（R）」**でFTP接続を切断します。

9. SELinuxの無効化

SELinuxを無効に設定する手順を説明します。
SELinuxが有効になっている場合は、AdminCloakの機能が使用できない場合がありますので無効にしてお使いください。

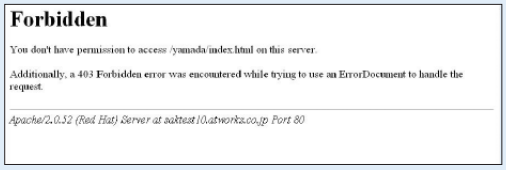
■AdminCloak機能が使用できない例

例1）DNSサービスの状態が“不明”と表示されている



図・【システム管理】⇒【サービス起動】メニュー

例2）ホームページを開くと、下の図のようなエラーが表示される



1 SELinuxの状態を確認します。

❶ 次のコマンドを実行します。
/usr/sbin/sestatus

❷ “Current mode: enforcing”と表示されている場合は、SELinuxが“有効”になっています。

```
[root@localhost ~]# /usr/sbin/sestatus ❶
SELinux status:                 enabled
SELinuxfs mount:                /selinux
Current mode:                   enforcing ❷
Mode from config file:          enforcing
Policy version:                 18
Policy from config file:targeted

Policy booleans:
allow_syslog_to_console inactive
```

2 SELinuxを無効にします。

❶次のコマンドを実行します。
echo 0 > /selinux/enforce

```
[root@localhost ~]# echo 0 > /selinux/enforce
[root@localhost ~]#
```
❶

3 ファイルを編集します。

❶ファイルを開きます。
vi /etc/sysconfig/selinux

❷次のように編集します。
SELINUX=enforcing
↓
SELINUX=disabled

```
[root@sv ~]# vi /etc/sysconfig/selinux
# This file controls the state of SELinux on the system.
# SELINUX= can take one of these three values:
#        enforcing - SELinux security policy is enforced.
#        permissive - SELinux prints warnings instead of enf
#        disabled - SELinux is fully disabled.
#SELINUX=enforcing
SELINUX=disabled
# SELINUXTYPE= type of policy in use. Possible values are:
#        targeted - Only targeted network daemons are protec
#        strict - Full SELinux protection.
SELINUXTYPE=targeted
```
❶ ❷

4 再度、SELinuxの状態を確認します。

❶次のコマンドを実行します。
/usr/sbin/sestatus

❷ “Current mode: permissive”と表示されていることを確認します。

```
[root@localhost ~]# /usr/sbin/sestatus
SELinux status:                 enabled
SELinuxfs mount:                /selinux
Current mode:                   permissive
Mode from config file:          enforcing
Policy version:                 18
Policy from config file:targeted

Policy booleans:
allow_syslog_to_console inactive
```
❶ ❷

6 その他

メモ

メモ

AdminCloak操作マニュアル

2013年2月6日（第2版）

株式会社 エーティーワークス

〒930-0856
富山県富山市牛島新町4-5
TEL: 0120-0-80586 / FAX: 076-443-5255
E-Mail: adcl@atworks.co.jp
http://www.atworks.co.jp/
http://online.atworks.co.jp/ （オンラインショップページ）
http://www.at-link.ad.jp/ （AT-LINK専用サーバ・サービス）

A.T.WORKS 株式会社 エーティーワークス

Copyright © 2006 A.T.WORKS, Inc. All rights reserved.